

# Nara Women's University

## 「創造的表現を活発にするための指導」 —動きのリズム—

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 奈良女子大学文学部附属幼稚園, 幼年教育研究会 公開日: 2011-04-12 キーワード (Ja): 音楽リズム, 創造意欲, 創造的表現, 動きのリズム キーワード (En): 作成者: 奈良女子大学文学部附属幼稚園, 幼年教育研究会 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10935/2707">http://hdl.handle.net/10935/2707</a>

# 「創造的表現を活発にさせるための指導」

## － 動きのリズム －

### 目 次

序 文 .....	1 頁
I 研 究 の 過 程 .....	3 頁
II 動きのリズムにおける幼児の実態調査報告 .....	6 頁
III 指 導 の 実 践 .....	53 頁
○ 3 才 児 の 指 導 .....	53 頁
○ 4 才 児 の 指 導 .....	61 頁
○ 5 才 児 の 指 導 .....	72 頁
後 記 .....	91 頁

## 序 文

当園では、幼児の創造性を開発するには、「動きのリズム」がきわめて効果的であるという結論をえたので、昭和40年以来「動きのリズム」について討論と実験を重ねてきた。

この第一報を「動きのリズム年間指導計画」として昭和41年3月横田園長時代に公表した。本年はこの研究をふまえ、「幼児の創造的表現を活発にするための指導」というテーマで整理した結果、第二報として本論のような指導原理と指導技術を一応見出すことができた。

問題意識、研究方法、研究成果については、各論で詳述されるので、ここでは研究のアウトラインを明らかにし、本論への導入とするために、研究概要をのべる。

私どもは討論の結果

① 幼児の創造意欲をひき出すには、「創造意欲」が生まれるメカニズムを検討しなければならないということになり、一般論として、創造心理をつぎのように把握した。

- ① 問題意識を持ち、知識を蓄積したり、模倣を行ったりする。
- ② 一定量の知識が蓄積されると新しくえた知識と瞬間的に結合して全く未開発の知識が引き出される。
- ③ その新らしい知識が他人から高く評価されると創造の喜びが喚気される。
- ④ 創造の喜びは回を重ねるに従い創造意欲を育成する。
- ⑤ 創造意欲はつぎの創造をひき出す原動力になる。

実験と討論をくり返した結果

② 上記の心理過程に対応し、つぎの諸条件を段階をおって整備すれば、幼児の創造的表現を活発にすることができるという結論に到達した。

第一段階 1. 発達段階に対応した基本的なリズムをマスターさせる。

2. 発達段階に対応した基本的な動作を体得させる。

3. 自然、社会現象に関する基本的な知識を習得させる。

第二段階 4. さまざまなリズムを与え、さまざまな自然・社会現象をからだで模倣して表現させることにより、豊かなイメージーションを育てる。

第三段階 5. 未知の歌曲を与え、感じたこと、考えたことを、リズムと動作、集団と個、集団と空間が調和するように工夫して表現させる。

6. 各自又はグループごとに批判し、鑑賞させ、創造する喜びを持たせる。

③ 以上の方法の一般化を行ない幼稚園教育にたずさわる者ならば誰でも指導できる技術として確立しなければならないと考え、つぎの資料集を作成した。

1. 奈良女子大学助教授 土谷 澄先生の御指導を頂き、各年令毎に指導すべき「動きのリズム」の諸要素について、一覧表を作成した。
2. リズムと動作の調和を訓練するために必要な伴奏用のリズム曲集を作った。
3. 自然、社会に関する基礎知識を一貫的・総合的に与える為に必要な年間指導計画をたてた。
4. 効果的な物語を創作して作曲し、奈良女子大学助教授 地主忠雄先生の御指導を頂き前記のリズム曲集に加えた。
5. 3才児，4才児，5才児について指導実践例を作成した。

---

以上は私どもの研究の概要でございます。

本論の内容とともに一連の資料集について、御批判，御指導を頂きたいと存じます。

現在、わが国は第二次文明社会から第三次文明社会へと漸移しておりますが、幼児達が中堅として活躍する第三次文明社会では最も必要な人間のタイプは「創造することのできる人間」ではないかと存じます。

こんないみから私どものささやかな研究が一人でも多くの幼児の幸せにつながる事が出来たらとひたすらに念願しております。

奈良女子大学文学部附属幼稚園

幼年教育研究会会長

博 松 静 江

# I 研究の過程

## 1 研究の動機

幼児はリズムカルに活動しながら内在する感情や感動を表現していく。この表現能力を高めることによって、自己表現の巾を広げ、奥行を深めて人間性を豊かにすることができる。

即ち、自己を適切な方法で豊かに表現させることによって、情緒も安定し、情操が豊かになり、また幼児相互の感情の交流も円滑になり、社会性も陶冶されるのである。

私たちは、「動きのリズム」指導において、幼児の生活領域を広め、創造的意欲を高め、表現能力を育成して人格形成の基礎を培いたいと思う。

教育要領「音楽リズム」の領域の「動きのリズム」に関する“ねらい”は、次のようにあげられている。

②の(1) のびのびと歩いたり、走ったり、とんだりなどして、リズムカルな動きを楽しむ。

(3) 曲に合わせて歩いたり、走ったり、とんだりする。

(4) 歌や曲をからだの動きで表現する。

(5) 動物や乗り物などの動きをまねて、からだで表現する。

(7) 友だちのリズムカルな動きを見て楽しむ。

④の(4) 感じたこと、考えたことを自由からだで表現する。

(5) 友だちといっしょに感じたこと、考えたことをくふうして歌や楽器やからだで表現する。

などの事項が主として「動きのリズム」のねらいと思われるが、その指導内容や指導段階は、明らかにされていない。

幼児の動きの表現を活発にするには、幼児の生活経験を豊かにし、模倣、即興的表現を助長し、のびのびと動きのリズムを楽しませ、感じたままをからだで表現させることが大切であるし、またリズム的感受性を豊かにし表現技術の基礎的要素を習得させることによって、一層表現を活発にすることができる。更にそれらは、年令的に発達段階にそって、系統的に指導すると、無理なく習得していくはずであると考えた。

そこで私たちは、昭和40年度から「動きのリズム」において、「創造的表現を活発にするためには、どのように指導すればよいか」という課題を掲げ、幼児の表現の実態を知り、指導内容を検討し、指導方法を探究してきた。

次に研究の経過をあげる。

## 2 研究の経過

昭和40年度

(1) 過去1年間に実践した「動きのリズム」の指導内容を検討し、再編成した。

① ねらいを検討する

当園の年間指導計画の中から、「動きのリズム」に関する経験や活動を抽出し、教育要領の「動きのリズム」のねらいにもとづいて検討した。

② 幼児の表現に見られる動きを分析し、下記の要素について指導段階を検討した。

a 主な動き

- ・その場の動き（投げる 押す つく ころがる 振る たたく など）
- ・移動（歩く 走る とぶ など）

b リズム

- ・パターン（一連の動きの時間的間隔で、例えば ♪♪、♪♪♪ など）
- ・強弱、高低、速度

c 空間の使い方（方向の変化、上下の動き、集散の移動 個、群、隊など）

③ 上記の要素にもとづいて指導計画を再編成した。編成に当たっては次の項目に分けた。

- a 幼児の活動      b 主な動き      c リズム      d 空間の使い方  
e ねらい      f 指導上の留意事項      g 資料

（昭和40年度奈良女子大学附属幼稚園  
研究紀要「動きのリズム」年間指導計  
画 昭和41年3月発行）

(2) 基礎的指導について研究した

創造的表現を活発にするための指導を前提として、各年会における基礎的指導課程を作成し、指導方法を研究し実践した。（昭和41年3月26日 研究発表）

昭和41年度

(1) 動きのリズムにおける幼児の実態調査

40年度の指導計画にもとづいて、幼児の発達段階と、指導内容を再検討するために次の項目について、実態調査を行なった。

- a 基礎的なからだの動き — 主な動き、パターン、強弱、速度、高低、空間の使い方  
b 模倣動作      c 創作的表現

(2) 幼児の表現を助長するための伴奏曲を作曲した。

(3) 創造的表現を活発にするため、指導法についての研究をし、指導計画の反省、評価をし

た。

昭和42年度

- (1) 41年度の実態調査の整理と考察をした。(昭和42年度研究紀要1 昭和43年2月発行)
- (2) 41年度に引きつづき“創造的表現を活発にするための指導”について実践し、発表する。  
(昭和42年度研究紀要1 昭和43年2月発行)
- (3) 動きのリズムの伴奏曲を、既成の曲の中から選択し、編集するとともに当園作曲の伴奏曲とその活用方法をまとめて編集した。  
(「動きのリズム」参考曲編 昭和42年11月発行)  
(昭和42年度研究紀要Ⅱ 「動きのリズム」作曲編 昭和43年2月発行)

## Ⅱ 動きのリズムにおける幼児の実態調査報告

### 1 目 的

音楽リズムにおける動きの表現は音楽的感覚と密接な関係がある。即ち音楽的感覚が動きの表現を助長し、また動きに表現することによって音楽的感覚を伸ばすことができるのである。早期に学習させる方が効果があるといわれる音楽的感覚の訓練についてもその指導にあたってはその内容や時期、指導の順序が発達段階に即していることが望ましい。まして動きの表現においては幼児の身体諸機能の発達の度合に応じた系統的な指導が必要である。そこで動きのリズムの指導上の問題を次のように考えた。

- (1) 幼児の成長の過程にあらわれる動きの姿はどのようなものであるか。
- (2) 年令別の発達段階に即した動きの標準はどのようなものであるか。
- (3) 上記の2項から当園動きのリズム年間指導計画(40年度作成)は適切であるか。

これらの問題点を究明するために次のような予想をたてて調査をした。

- (1) 動きのリズムは特に個人差が大きいと思われるが年令相応の標準を把握することができるはずである。
- (2) 意図的な経験の積みかさねによって効果があがり、また2年保育と3年保育との差があらわれるはずである。
- (3) 動きのリズムにおいて男女差がみられるであろうか。

### 2 方 法

#### (1) 調査問題

当園昭和40年度発行「動きのリズム年間指導計画」の指導内容を参照し「主な動き」「リズムパターン」「強弱・高低・速度」「空間の使い方」の各項目ごとに5問題を次の基準によって選んだ。

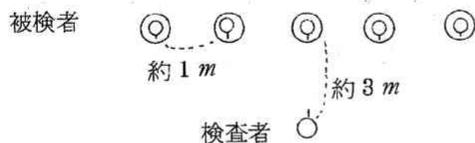
- イ. 年令に適したもの
- ロ. 多面的でかたよりのないもの
- ハ. 年間をとおして系統的なもの

調査にあたって次の配慮をした。

- イ. 小学校低学年音楽教育にあらわれるリズムパターンを参照した。
- ロ. 年令に適した説明の言語的表現を考慮した。
- ハ. 予備調査を行ない、調査の方法その他について吟味した。

## 調査実施上の留意点

1. 男女別に5名ずつ検査する。
2. 被検者と検査者の位置は図の通りとする。



約 1 m 間隔に 5 個の円をえがき、その中に被検者を立たせる。

3. 調査は、伴奏者と説明者の 2 人で実施する。
4. 伴奏は、普通の速さをメトロノーム 120 位とする。
5. 各年齢とも、開始にあたって次のように説明する。

「これから先生とみなさんと、手をたたいたり、歩いたりして遊びましょう。先生がするときにはよく見ていきましょう。はじめは見るだけです。先生が「はい」と言ってから；みなさんがしましょう」

### 6. 採点法

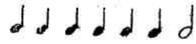
幼児の活動欄に示してある呼間内において規定の動作があらわれた者は○、あらわれない者は×とする。

調査問題 い

動きのリズム調査	
主な動き	説 明
拍 手	<p>「はじめに先生が手をたたきますから、よく見ていましょう。はじめは見るだけです。先生が「はい」と言ってからみなさんがするのですよ。ではよく見ていましょう」</p> <p style="text-align: center;">— 示 範 —</p> <p>「こんどは みなさんが手をたたいてごらんください」 「はい」</p>
両 足 と び	<p>「また 先生のするのを見ていましょう」</p> <p style="text-align: center;">— 示 範 —</p> <p>「こんどは みなさんととんでごらんください」 「はい」</p>
歩 く	<p>「次は先生が歩きますからよく見ていましょう」</p> <p style="text-align: center;">— 示 範 —</p> <p>「みなさんも好きな所へ歩いていきましょう」 「はい」</p>
走 る	<p>「こんどは 先生が走りますから見ていましょう」</p> <p style="text-align: center;">— 示 範 —</p> <p>「ではみなさんも好きな所へ走ってごらんください」 「はい」</p>
は ゝ (模放動作)	<p>「こんどは先生のまねをして、かめになりましょう」</p> <p>「はじめは先生だけでしますから見ていてください」</p> <p style="text-align: center;">— 示 範 —</p> <p>「では先生といっしょにみなさんも「かめ」になってはってみましょう」 「はい」</p>
リズムパターン	説 明
① ♪ ♪ ♪  手	<p>「先生が手をたたきますからよく見ていましょう。はじめは見るだけです」</p> <p style="text-align: center;">— 示 範 —</p> <p>「ではこんどは音をよく聞いてみなさんが手をたたきましょう」</p> <p>「はい」</p>

問題 (3才用)

示 範		幼 児 の 活 動		伴 奏	備 考
呼 間	動 き	呼 間	動 き		
4	拍手してみせる (4回)	1 2	たいこを聞きながら手をたたく	たいこ	たいこの速度に合わなくてもよい。
4	両足とび1拍1動作を4回みせる	1 2	両足とびをする 自由方向	たいこ	同 上
8	自由方向へ歩いてみせる	2 4	自由方向へ歩く	たいこ	同 上
8	自由方向へ走ってみせる	2 4	自由方向へ走る	たいこ	同 上
4	両手,両ひざをついてはってみせる	1 2	先生の動作をまねてはう	たいこ	同 上
示 範		幼 児 の 活 動		伴 奏	備 考
呼 間	動 き	呼 間	動 き		
8	パターンどおり,拍手してみせる(2回)	2 4	拍子木の音に合わせて手をたたく パターン 6回	拍子木	パターンどおり拍子木を打つ 6回

リズムパターン	説明
足	<p>「こんどは先生が歩きますから、歩き方をよく見ていてください」</p> <p>— 示 範 —</p> <p>「ではみなさんも音をよく聞いて、音のとおり歩きましょう」</p> <p>「はい」</p>
②  手	<p>「また先生が手をたたきますから、よく見ていきましょう」</p> <p>— 示 範 —</p> <p>「ではみなさんも音に合わせて手をたたきましょう」 「はい」</p>
足	上に準じる
③  手	<p>「また先生が手をたたきますから、よく見ていきましょう」</p> <p>— 示 範 —</p> <p>「ではみなさんもよく音を聞いて手をたたきましょう」 「はい」</p>
足	上に準じる
④  手	<p>「先生が手をたたきますから、よく見ていてください」</p> <p>— 示 範 —</p> <p>「強い音のときには強く手をたたき、弱い音のときには弱く手をたたきましたね」</p> <p>「ではみなさんも、よく聞いて、音に合わせて手をたたきましょう」</p> <p>「はい」</p>
足	上に準じる

示 範		幼 児 の 活 動		伴 奏	備 考
呼 間	動 き	呼 間	動 き		
8	パターンどおり歩いてみせる(2回)	2 4	拍子木の音に合わせて歩く パターン 6回	拍子木	パターンどおり拍子木を打つ
1 6	パターンどおり拍手してみせる(2回)	3 2	拍子木の音に合わせて歩く パターン 4回	拍子木	同 上
1 6	パターンに合わせて歩いてみせる(2回)	3 2	拍子木の音に合わせて歩く パターン 4回	拍子木	同 上
8	パターンどおり拍手してみせる(4回)	2 4	拍子木の音に合わせて手をたたく パターン 1 2回	拍子木	同 上
8	パターンどおり歩いてみせる(4回)	2 4	拍子木の音に合わせて歩く パターン 1 2回	拍子木	同 上
8	 のパターンで拍手してみせる(4回)	2 4	たいこの強弱に合わせて手をたたく パターン 1 2回	たいこ	弱拍部は小さいこのわく打ちをする
8	 のパターンで歩いてみせる(4回)	2 4	たいこの強弱に合わせて歩く パターン 1 2回	たいこ	同 上

リズムパターン	説明
⑤  手     足	<p>「先生が手をたたきますから、よく見てみましょう」</p> <p>— 示 範 —</p> <p>「みなさんも音に合わせてたたいてみましょう」</p> <p>上に準じる</p>
強弱・高低・速度	説明
アクセント	<p>普通の強さの音を聞かせながら</p> <p>「今なっている音は、普通の強さの音ですよ。この音がなっている間は手をたたきましょう。そして（強い音を1拍たたき）こんな強い音になったら、手を頭へのせましょう。わかりましたか」</p> <p>「ではよく音を聞きながら手をたたきましょう。強い音になったら手を頭へのせるのですよ」 「はい」</p>
普 ——— 強	<p>「たいこをたたきますからよく聞きましょう。（普通の強さの音を8呼間聞かせる）今なっているのは普通の音です」</p> <p>「次に強い音がなりますよ。（強い音を8呼間聞かせる）今のは強い音です」</p> <p>「普通の音のときには普通に歩いて、強い音になったら力をいれて強く歩きましょう」</p> <p>「では、音をよく聞いて歩いてごらんさい」 「はい」</p>
普 ——— 速	普 — 強に準じる

示 範		幼 児 の 活 動		伴 奏	備 考
呼 間	動 き	呼 間	動 き		
8	パターンどおり拍手してみせる(2回)	2 4	拍子木の音に合わせて手をたたく パターン 8回	拍子木	パターンどおり拍子木を打つ。
8	パターンどおり歩いてみせる(2回)	2 4	拍子木の音に合わせて歩く パターン 8回	拍子木	同 上
示 範		幼 児 の 活 動		伴 奏	備 考
呼 間	動 き	呼 間	動 き		
	たいこのわく打ちを8呼間して聞かせる。 次に強い音を1拍ならして聞かせる。		たいこわく打ちを聞きながら拍手し、強い音がなったら手を頭へのせる。 (3回くりかえす)	たいこ	たいこで ♪♪♪♪♪♪♪♪ ♪♪♪♪♪ を3回くりかえして打つ。 ♪ はきわめてつよく。
1 6	たいこを、普通の強さで8呼間、強い音で8呼間聞かせる。	4 8	8呼間普通に歩き、次の8呼間は強く歩く。 (3回くりかえす) 自由方向	たいこ	普通の強さの音で8呼間、強い音で8呼間ならし、これを3回くりかえす。
1 6	普通の速さと、速い音を8呼間づつ聞かせる。	4 8	8呼間普通に歩き、次の8呼間速く歩く。 (3回くりかえす) 自由方向	たいこ	速い音は、普通速度(120)の2倍くらいにする。

強弱・高低・速度	説 明
普———高	<p>中央ハ音を8呼間聞かせながら</p> <p>「今なっている音は、普通の音ですよ。よく聞きましょう」</p> <p>「こんどは高い音がありますよ」</p> <p>(ハ音を8呼間聞かせながら)</p> <p>「普通の音のときは普通に歩いて、高い音になったら手を高くあげて、できるだけ背のびして歩きましょう」</p> <p>「はい、歩きましょう」</p>
普———低	<p>普 — 高に準じる</p> <p>(低い音はへとすること)</p>
空間の使い方	説 明
自由方向へ移動	<p>「こんどは、お友だちにぶつからないように気をつけて、好きな所へ歩きましょう」</p> <p>「はい」</p>
前進・後進	<p>「今、みなさんは前を向いていますね。はじめは前をむいて歩きましょう。そして先生が「うしろへ歩きましょう」と言ったらうしろへ歩きましょう」</p> <p>「では、はじめは前へ歩きましょう」</p> <p>「はい」</p>
まるく歩く	<p>「みんなの前に、いすがおいてありますね」</p> <p>「そのいすのまわりを歩いてみましょう」</p> <p>「はい」</p>
うづくまる	<p>「こんどはその場でしゃがんでできるだけからだを小さくまるくしてみましょう」</p> <p>「はい」</p>

示 範		幼 児 の 動 き		伴 奏	備 考
呼 間	動 き	呼 間	動 き		
16	中央ハ音を8呼間 ハ音を8呼間ひいて 聞かせる	48	8呼間普通に歩き、次 の8呼間は手を高くあ げて歩く。 (3回くりかえす) 自由方向	ピアノ	
16	中央ハ音を8呼間 ハ音を8呼間ひいて聞 かせる。	48	8呼間は普通に歩き、 次の8呼間は背を低く して歩く。 (3回くりかえす) 自由方向	ピアノ	
示 範		幼 児 の 活 動		伴 奏	備 考
呼 間	動 き	呼 間	動 き		
	なし	48	たいこに合わせて、自 由方向に歩く。	たいこ	たいこを、普通の速さ で48呼間ならす。
	なし	48	8呼間前進、次の合図 で8呼間後進をおこな う。 (3回くりかえす)	たいこ	8呼間歩いたら "うしろへ歩きましょう" "前へ歩きましょう" と合図をする。
	なし	12	いすのまわりを歩いて まわる。 (12呼間)	たいこ	各幼児の立っている前 に1つつついすをおく。
	なし		うづくまる	なし	

空間の使い方	説明
自分の場所を知る	<p>「たいこの音に合わせて好きな所へ歩いていって、たいこの音がとまったら今、立っている円の中へ帰りましょう」</p> <p>「では、好きな所へ歩いていってごらん下さい」</p> <p>「はい」</p>

調査問題 ろ

動きのリズム調査	
主な動き	説明
片足とび	<p>「先生のするのを見ていてください」</p> <p>— 示 範 —</p> <p>「みなさんもしましょう」</p> <p>「はい」</p> <p>「こんどは反対の足でとびましょう」 「はい」</p>
スキップ	<p>「また先生がするのを見ていきましょう」</p> <p>— 示 範 —</p> <p>「こんどはみなさんがしましょう」</p> <p>「はい」</p>
押す (模倣動作)	<p>「先生のするのを見ていてください。大きな荷物を車に積んで、坂道を押して登ります」</p> <p>— 示 範 —</p> <p>「こんどはみなさんも先生のをよく見ていっしょにしましょう」</p> <p>「はい」</p>

示 範		幼 児 の 活 動		伴 奏	備 考
呼 間	動 き	呼 間	動 き		
	な し	1 2	たいこのなっている間 自由方向に歩き、たい この音がとまったら、 自分の円にもどる		たいこを12呼間なら して音を止める。

問 題 ( 4 才 用 )

示 範		幼 児 の 活 動		伴 奏	備 考
呼 間	動 き	呼 間	動 き		
4	片足とび4回してみせ る。  足を交代することは示 範しない。	8  8	片足とびをする 8 回  もう一方の足で片足と びをする 8 回	たいこ	一方で片足とびを8回 したら、他の足でつづ けて片足とびをするよ う言葉をかける。
8	自由方向へスキップを してみせる。	1 6	スキップをする 自由方向	たいこ	
4	歩きながら腕を前へ1 拍1動作で曲げのぼし て見せる「よいしょ」 のかけ声をかけながら 動作する。 幼児に教師の動作を見 せながら幼児とともに 動作する。	1 2	教師の動作をまねて動 作する。 押す動作 12回	たいこ	

主 な 動 き	説 明
投 げ る (即興表現)	<p>「まりを遠くへ投げるまねをしましょう。先生はしませんから、自分で考えて投げましょう」</p> <p>「1・2・3 はい」</p>
ふ る (創作的表現)	<p>「先生のお話をよく聞いて、動き方を考えましょう」</p> <p>「さあ話します」</p> <p>「おなかのすいたぞうさんがおいしいごちそうがないかなとあちこち探していました。</p> <p>「おや、おいしそうなバナナがあるぞ」ぞうさんは喜んで食べました」</p> <p>「おなかのすいたぞうさんはどんなかっこうで鼻をふるでしょう。またごちそうをみつけて喜んだ、ぞうさんはどんなかっこうで鼻をふるでしょう」</p> <p>「今の話のぞうさんになって動いてみましょう」</p> <p>「はじめはおなかのすいたぞうさんになって歩きましょう。はい」</p> <p>(幼児の動作が表らわれたら次の指示をする)</p> <p>「おや! おいしそうなバナナをみつけて喜んでいますよ」</p>
リズムパターン	説 明
<p>① </p> <p>手</p> <p>足</p>	<p>「先生が手をたたきますから、よく見ていきましょう。はじめは見ていますよ」</p> <p>— 示 範 —</p> <p>「さあ、みなさんが手をたたきましょう」 「はい」</p> <p>「先生が歩きますから、よく見ていきましょう」</p> <p>— 示 範 —</p> <p>「さあ みなさんが歩きましょう」</p> <p>「はい」</p>
<p>② </p> <p>手</p>	<p>「先生が手をたたきますから、よく見ていきましょう」</p> <p>— 示 範 —</p> <p>「みなさんも手をたたきましょう」</p> <p>「はい」</p>

示 範		幼 児 の 活 動		伴 奏	備 考
呼 間	動 き	呼 間	動 き		
なし	なし	なし	まりを遠くへ投げる動作を1回する。	なし	30秒以内に遠くへ投げる動作を表現したら○とする。
なし	なし	なし	話をきいてその感じを動作で表現する。	なし	検査は1名ずつ行なう。  1分以内に動作を開始し、おなかのすいたぞうとバナナをみつけて喜んだぞうの鼻の振り方に差が見られれば○とする。
示 範		幼 児 の 活 動		伴 奏	備 考
呼 間	動 き	呼 間	動 き		
8	パターンどおり手をたたいてみせる。 2回	24	拍子木の音に合わせて手をたたく。 パターン 6回	拍子木	
8	パターンどおり歩いてみせる。 2回	24	拍子木の音に合わせて歩く。 パターン 6回	拍子木	
6	パターンどおり手をたたいてみせる。 パターン 2回	18	拍子木の音に合わせて手をたたく。 パターン 6回	拍子木	拍子木で  を明確に打つ

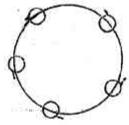
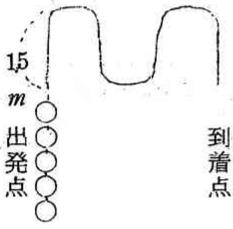
リズムパターン	説明
足	上に準じる
③  手	「先生が手をたたきますから、よく見てみましょう」 — 示 範 — 「さあ みなさんが手をたたきましょう」 「はい」
足	上に準じる
④  手	「先生が手をたたきますから、よく見てみましょう」 — 示 範 — 「さあ みなさんが手をたたきましょう」 「はい」
足	「先生のするのをよく見てみましょう」 — 示 範 — 「ではみなさんも動いてみましょう」 「はい」
⑤  手	「先生が手をたたきますから、よく見てみましょう」 — 示 範 — 「さあ みなさんが手をたたきましょう」 「はい」
足	「先生のするのをよく見ていてください」 — 示 範 — 「音をよくきいてみなさんも動いてみましょう」 「はい」

示 範		幼 児 の 活 動		伴 奏	備 考
呼 間	動 き	呼 間	動 き		
6	パターンどおり歩いて自由方向へ歩いて見せる。 2回	1 8	拍子木の音に合わせて歩く。 パターン 6回 自由方向	拍子木	
1 6	パターンどおり手をたたいて見せる。 2回	4 8	拍子木の音に合わせて手をたたく パターン 6回	拍子木	
1 6	パターンどおり自由方向へ歩いてみせる。 2回	4 8	拍子木の音に合わせて歩く。 パターン 6回 自由方向	拍子木	
1 6	パターンどおり手をたたいて見せる。 2回	4 8	拍子木の音に合わせて手をたたく パターン 6回	拍子木	
1 6	パターンどおり4拍走り、4拍歩いて見せる パターン 2回 自由方向	4 8	拍子木の音に合わせて歩く パターン 6回 自由方向	拍子木	
1 6	パターンどおり手をたたいて見せる。 2回	4 8	拍子木の音に合わせて手をたたく パターン 6回	拍子木	幼児の手拍子が付点音符を正確に打っているか注意して見る。
1 6	4拍スキップつぎに2拍1動作で2歩あるく。以上の動作を2回くり返して見せる。 自由方向	4 8	拍子木の音に合わせて示範と同じ動作を、6回くり返す。	拍子木	スキップが4回正確にできてから次の動作に移行しているか注意して見る。

強弱・高低・速度	説明
アクセント	<p>「これから強い音と弱い音をならします」</p> <p>強い音を4拍聞かせる。</p> <p>「これは強い音です。強い音になっている間は手をたたきます」</p> <p>「つぎは弱い音です」</p> <p>弱い音を4拍聞かせる。</p> <p>「弱い音のなっている間は、肩をたたきましょう」</p> <p>「では音をよく聞いてしてごらん下さい」「はい」</p>
普通 高	<p>中央ハの音を聞かせる。</p> <p>「これは普通の高さの音です。普通の高さの音になっている時は普通に歩きます」</p> <p>ハの音を聞かせる。</p> <p>「これは高い音です。高い音になったら手をあげて、つま先だけで歩きましょう」「はい」</p>
だんだん強く	<p>「たいこの音を聞きましょう」</p> <p>音を聞かせながら</p> <p>「弱い音からだんだん強くなっているでしょう」</p> <p>「はじめは弱く手をたたいて、音に合わせながら、だんだん強く手をたたきましょう」「はい」</p>
だんだん高く	<p>「みなさんしゃがんで音を聞きましょう」</p> <p>音を聞かせながら</p> <p>「音がだんだん高くなっていますね」</p> <p>「みなさんは音をよくきいて、音がだんだん高くなったら、だんだんからだを伸ばして高くしましょう」</p> <p>「はい」</p>
だんだん速く	<p>「音をよく聞きましょう」</p> <p>音を聞かせながら</p> <p>「音がだんだん速くなっていますね」</p> <p>「では音をよく聞きながら、はじめはゆっくり歩き、音がだんだん速くなったらみなさんもだんだん早く歩きましょう」</p>

示 範		幼 児 の 活 動		伴 奏	備 考
呼 間	動 き	呼 間	動 き		
なし	<p>たいこで強い音，弱い音を聞かせる。</p> <p>— 強く — 弱く</p>	2 4	<p>たいこの強弱に合わせて</p> <p>は拍手 は自分の肩をたたく。 以上3回くり返す。</p>	たいこ	<p>たいこを</p> <p>とならし，3回くり返す。</p>
8	<p>中央ハ音4拍聞かせる。</p> <p>ハ音を4拍聞かせる。</p>	2 4	<p>ピアノの普—高の音に合わせて</p> <p>普 — 4拍歩く 高 — 4拍手を上にあげてつま先歩き動作を3回くり返す。</p>	ピアノ	<p>ピアノ伴奏は中央ハ4拍，ハを4拍弾きそれを3回くり返す。</p>
1 2	<p>たいこを12呼間の間に弱くからだんだん強くなるように聞かせる。</p>	12呼間を3回	<p>音に合わせて12呼間に手をたたく 以上を3回くり返す</p> <p>弱  強</p>	たいこ	<p>通常聞かせている音を普通の強さとして</p> <p>弱  強</p> <p>を表わすようにたいこをならす。</p>
1 2	<p>12呼間にピアノのは音からハ音まで順次高くなるようにひいて聞かせる。</p>	12呼間を3回くり返す	<p>ピアノの4オクターブの低  高を聞いてしゃがむ動作から順次からだをのぼし最高の音の時に手を上におげ，せのびするようにしてできるだけからだで高く表現する。 3回くり返す。</p>	ピアノ	
2 4	<p>遅をメトロノーム80速をメトロノーム208くらいとして24呼間にだんだん速い感じを出すようにたいこを打って聞かせる。</p>	24呼間を3回	<p>はじめはゆっくり歩き音が速くなるに従ってだんだん速く歩く。</p>	たいこ	<p>だんだん速い感じが表現されていけば○とする。</p>

空間の使い方	説明
左右へ移動	<p>「A先生の方へ顔もからだもむけたままB先生の方へ歩いていきましょう」</p> <p>「はい」</p> <p>「もう1度，A先生の方へむいたまま，B先生の方へ歩いていきましょう」 「はい」</p>
円周に沿って走る	<p>「ここに円が書いてありますね。この円の好きな所へ立ちましょう」</p> <p>円周線上に立たせる。</p> <p>「みんな同じ方を向きましょう」</p> <p>「この白い線の上を走りましょう」</p> <p>「はい」</p>
方向転換	<p>「好きな方へ歩いて行って途中でたいこがドン（たいこを1拍ならす）になったら違う方へ向って歩きましょう」 「はい」</p>
蛇行	<p>「ここに並びましょう」蛇行線の出発点に5名を並ばせる。</p> <p>「この線から落ちないように歩きましょう。〇〇さんからですよ」</p> <p>「はい」</p>

示 範		幼 児 の 活 動		伴 奏	備 考
呼 間	動 き	呼 間	動 き		
	B先生の位置を指さして知らせる。 B先生は第1回は幼児の左方に第2回目は右方に立つ。		A先生の方へむいてB先生の方へ横歩きで左へ進み、つぎに右へ進む。		教師の位置 第1回 B先生 ← ○A先生 ○ 幼 児 ○ ○ ○ ○ ○ 第2回 ○A先生 → B先生 ○ 幼 児 ○ ○ ○ ○ ○
	直径3mの円を書き、円周上に適当に間隔を保って5名の幼児を立たせ、同一方向にむける。		円周上を走って3周する。	たいこ	 ほぼ円周に沿って走れば○とする。
	なし	3 2	自由方向へ歩きたいこの音の合図で方向転換して歩く。	たいこ	幼児が歩く呼数をみて8拍目ごとにたいこをならす。
			蛇行線に沿って線の始めから終わりまで歩く。	たいこ	ひとりずつ歩かせる。 ほぼ線に沿って歩けば○とする。

調査問題 は

動きのリズム調査	
主 な 動 き	説 明
前 け り	<p>「先生が始めに前けりをしますからよく見ていきましょう。はじめは                      見ているだけです。はいと言ったらみなさんもしましょう。」</p> <p style="text-align: center;">— 示 範 —</p> <p>「はい」</p>
ホ ッ プ	<p>「ホップをします。よく見ていきましょう。はいと言ったらみなさん                      もしましょう。」</p> <p style="text-align: center;">— 示 範 —</p> <p>「はい」</p>
からだの屈伸 (模 倣)	<p>「またよく見ていきましょう」</p> <p style="text-align: center;">— 示 範 —</p> <p>「ではみなさんもやってみてください。はい」</p>
た た く (即 興)	<p>「手や肩やからだの好きなところを自由にたたいてみましょう。た                      たくところをいろいろかえてたたいてください」</p> <p>「はい」</p>
引 く (創 作)	<p>「ねずみさんがおもちを見つけました。『おいしいぞ』と言ってお                      家へもって帰ろうとしましたがなかなか動きません。重いおもちを                      ひっぱっても動かないようすをしましょう。はい」</p> <p>「そこへお父さんねずみがやってきて『どれどれ私がひっぱってみ                      よう』と言ってひっぱりました。お父さんねずみは力が強いのでお                      家へひっぱって帰ることができました。さあ、お父さんねずみにな                      って重いおもちをひっぱっていくようすをしましょう。はい」</p>

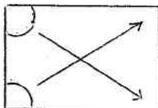
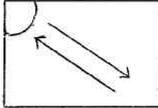
内容 (5才用)

示 範		幼 児 の 活 動		伴 奏	備 考
呼 間	動 き	呼 間	動 き		
8	前けりを 1拍1動作でする	2 4	前けりを自由方向にする。	拍子木	
8	ホップをしてみせる	2 4	ホップを自由方向にする。	拍子木	
8	 左図の動作を 2拍1動作で してみせる。	2 4	からだの屈伸をする	拍子木	
	なし	2 4	肩や胸などの各部をたたく。	拍子木	
			ねずみになって表現する。		30秒以内に動作を開始し動かないものを力いっぱいひく。 重い動くものを力いっぱいひく。 この2つの差を表現すれば○とする。



示 範		幼 児 の 活 動		伴 奏	備 考
呼 間	動 き	呼 間	動 き		
8	パターン通り拍手してみせる。2回	2 4	拍子木にあわせて手をたたく。6回	拍子木	拍子木はパターン通りうつ
8	パターン通り歩いてみせる。2回	2 4	拍子木にあわせて歩く 6回		
8	パターン通り拍手してみせる。2回	2 4	拍子木にあわせて手をたたく。	拍子木	
8	パターン通り歩いてみせる。2回	2 4	拍子木にあわせて歩く 6回	拍子木	
1 6	パターン通り拍手してみせる。2回	2 4	拍子木にあわせて手をたたく。3回	拍子木	
1 6	上に準じる	2 4	拍子木にあわせて歩く 3回		
8	パターン通り拍手してみせる。2回	2 4	拍子木にあわせて手をたたく。6回	拍子木	
8	上に準じる	2 4	上に準じる 6回	拍子木	
8	手は $\dot{\downarrow} \dot{\downarrow}$ }の動き 足は $\dot{\downarrow} \dot{\downarrow} \dot{\downarrow} \dot{\downarrow}$ }の動き で動作をしてみせる。 2回	2 4	ピアノにあわせて、手を動かしながら歩く。	ピアノ	ピアノは 右手 $\dot{\downarrow} \dot{\downarrow}$ }の伴 左手 $\dot{\downarrow} \dot{\downarrow} \dot{\downarrow} \dot{\downarrow}$ }の伴 奏をする。
示 範		幼 児 の 活 動		伴 奏	備 考
呼 間	動 き	呼 間	動 き		
8	たいこの音を聞かせる。	1 6	アクセントをとらえながら自由方向に歩く。	たいこ	

強弱・高低・速度	説 明
だんだん高く だんだん低く	「みなさんしゃがんで音を聞きましょう」音を聞かせながら「低い音からだんだん高くなっていますね。みなさんは音をよく聞いて音がだんだん高くなったら、だんだんからだを伸ばし、だんだん低くなったらだんだんからだを低くしましょう」 「はい」
だんだん強く だんだん弱く	「たいこの音をよく聞きましょう」音を聞かせながら「弱い音からだんだん強くなっているでしょう。音をよく聞きながら弱い音のときは弱く、だんだん強くなったらだんだん強く歩きましょう」 「はい」
だんだん速く だんだん遅く	「たいこの音をよく聞きましょう」 — たいこ 「だんだん速くなりそしてまただんだんおそくなっていきましたね。音にあわせてだんだん速く歩いたり、おそく歩いたりしましょう」 「はい」
複合のアクセント	「たいこの音をよく聞きましょう」音を聞かせる。 「強い音がなかったら手を叩きましょう。弱い音の時は手をたたかないで聞いてください」 「はい」
空間の使い方	説 明
軸廻転の移動	「こまになってくるくるまわりましょう」 「はい」 「それではこまになって廻りながら、好きな所へ行きましょう」 「はい」
斜めへの移動	「ここへいらっしゃい」（集合） ここから向うの隅へ向って歩きましょう。
群の移動	「はとがみんなといっしょに豆を食べにいきました。ひとりで先にいくと豆がなくなってしまいますから、仲よくかたまるとんでいきましょう。豆は向うにあります。はい」

示 範		幼 児 の 活 動		伴 奏	備 考
呼 間	動 き	呼 間	動 き		
2 4	1 2呼間にピアノのは音からハ音まで順次高くなるように聞きハ音からは音まで順次さげて聞かせる。	2 4	最初はしゃがみ，その場でだんだんたちあがり，またしゃがむ。以上2回くりかえす。	ピアノ	低い音でにしゃがみ音の感じをとらえてハ音で両手をあげ伸びあがる動作を表現すれば○とする。
3 2	たいこを3 2呼間に弱くからだんだん強くなるように聞かせる。	6 4	たいこの音に反応し，自由方向へ弱くからだんだん強く，まただんだん弱く歩く。	たいこ	通常聞かせている音を普通の強さとして 弱 < 強 > 弱 を表わすようにたいこをならす。
3 2	遅8 0—速度1 8 0くらいとし1 6呼間に漸次速い感じができるように打ち，続いて同様にだんだん遅く打つ。	6 4	自由方向へ速度をかえながら歩く。3 2呼間を2度くり返す。	たいこ	だんだん速く，だんだん遅くの感じをとらえて表現できれば○
3 6	4拍子，3拍子，2拍子の第1拍にアクセントをつけ，各拍子4回ずつを連続に打って聞かせる。	3 6	たいこの音のアクセントに反応して手をたたく。	たいこ	各拍子のアクセントの3回目に反応を示したら○とする。
示 範		幼 児 の 活 動		伴 奏	備 考
呼 間	動 き	呼 間	動 き		
	なし	8 1 6	音にあわせて軸廻転をする。 音にあわせて軸廻転の移動をしながら自由方向へ動く。	拍子木	 のリズムで8呼間うつ 上のリズムで1 6呼間うつ
	なし		各幼児ひとりずつ順に歩く。	拍子木	集合 
	なし		5人群になって場を移動する。	拍子木	

空間の使い方	説明
線になったり円になったりする	<p>「ここへたてに1列にならびなさい。ならんで歩きましょう。先頭の方は好きな所へ行きなさい。はい」線になって歩く。</p> <p>「こんどは歩きながら円をつくりましょう」</p>
1列横隊の前進後進	<p>「横にならんでみましょう。横にならんだままでみんな揃って前へ歩きましょう」</p> <p>「こんどはそのまま後へ歩きましょう」</p>

(2) 実施条件

イ. 被 検 者	5才児 2年保育 32名	} 計 146名
	2・3年混合 31名	
	4才児 2年保育 32名	
	2・3年保育 30名	
	3才児 20名	
ロ. 時 期	41年度 6月 9月 11月 2月	
ハ. 時 間	午前9時30分から10時30分迄 1組約30分	
	(3才児は約10分ずつ2回にわたる)	
ニ. 場 所	旧奈良女子大学文学部附属幼稚園 保育室	

示 範		幼 児 の 活 動		伴 奏	備 考
呼 間	動 き	呼 間	動 き		
	な し	線 1 6 円 1 6	5人縦列で自由方向に 歩く。 歩きながら円をつくる。	拍子木	5人がそれぞれ先頭になり、5回行なり。
	な し	8  1 6  3 2	1列横隊で前へ歩く。  1列横隊で後へ歩く。  以上の動きを2回くりかえす。	拍子木	間隔は50cmとし、床に円をかく。  ○←○ ○ ○ ○ 50cm

### 3 結果

(1) 有意差検定表

第 1 表

4, 5才児については3年保育を経た幼児のグループをA群,

	変 動 因	主 な 動 き				リズムパターン(手)			
		平方和	自由度	平均平方	F	平方和	自由度	平均平方	F
3才児	月(6,9,11,2)	005	3	002	067	1464	3	488	9760 <sup>**</sup>
	個人差	045	19	002	067	3064	19	161	3220 <sup>**</sup>
	誤差	145	57	003		311	57	005	
4才児	クラス(ABC)	03	2	015	002	151	2	755	074
	月(6,9,11,2)	269	3	897	1574 <sup>**</sup>	380	3	1267	2147 <sup>**</sup>
	交互作用(クラスと月)	52	24	022	039 <sup>**</sup>	80	24	033	056
	個人差	365	6	608	1067 <sup>**</sup>	609	6	1015	1720 <sup>**</sup>
	誤差	413	72	057		426	72	059	
5才児	クラス(ABC)	43	2	215	032	82	2	410	037
	月(6,9,11,2)	180	3	60	1034 <sup>**</sup>	214	3	713	1620 <sup>**</sup>
	交互作用(クラスと月)	11	24	005	009	20	24	008	018
	個人差	400	6	667	1150 <sup>**</sup>	668	6	1113	2530 <sup>**</sup>
	誤差	416	72	058		316	72	044	

(2) 年令別(保育年数別)統計調

第 2 表 ハ

年令	調査月	性別	項目	主 な 動 き					リズムパターン(手)				
				拍	両	歩	走	は	①	②	③	④	⑤
				手	足と	く	る	う(模倣)	↑ ↓ ↑ ↓	↑ ↓ ↑ ↓ ↑ ↓	↑ ↓	↑ ↓	↑ ↓ ↑ ↓ ↑ ↓
三才児 (三年保育)	41年 6月	男	1000%	1000	1000	909	1000	909	455	818	0	909	
		女	1000%	1000	1000	1000	1000	1000	889	778	111	1000	
		計	1000%	1000	1000	950	1000	950	650	800	50	950	
	9月	男	818%	1000	1000	1000	1000	909	818	818	182	1000	
		女	1000%	1000	1000	1000	1000	1000	889	1000	667	1000	
		計	900%	1000	1000	1000	1000	950	850	900	400	1000	
	11月	男	1000%	909	1000	1000	1000	1000	727	909	364	1000	
		女	1000%	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	667	1000	
		計	1000%	950	1000	1000	1000	1000	850	950	500	1000	
	42年 2月	男	1000%	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	182	1000	
		女	1000%	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	
		計	1000%	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	550	1000	

3年保育と2年保育の混合クラスの幼児をB群，2年保育のみをクラスをC群と呼称する。

リズムパターン(足)				強弱 高低 速度				空間の使い方			
平方和	自由度	平均平方	F	平方和	自由度	平均平方	F	平方和	自由度	平均平方	F
2305	3	768	** 2743	870	3	290	** 569	184	3	061	191
6630	19	349	** 1246	1870	19	018	** 192	614	19	032	100
1620	57	028		2880	57	051		1841	57	032	
306	2	1530	073	78	2	390	058	15	2	075	036
535	3	1733	** 2229	256	3	853	** 1609	134	3	447	** 1656
126	24	053	066	76	24	032	060	91	24	038	141
1261	6	2102	** 2628	403	6	672	** 1268	126	6	210	** 778
577	72	080		380	72	053		194	72	027	
32	2	160	008	45	2	225	059	17	2	085	052
418	3	1393	** 1990	321	3	1070	** 2378	104	3	347	** 1052
56	24	023	033	25	24	010	022	31	24	013	039
1168	6	1947	** 2731	228	6	380	** 844	97	6	162	** 557
505	72	070		325	72	045		234	72	033	

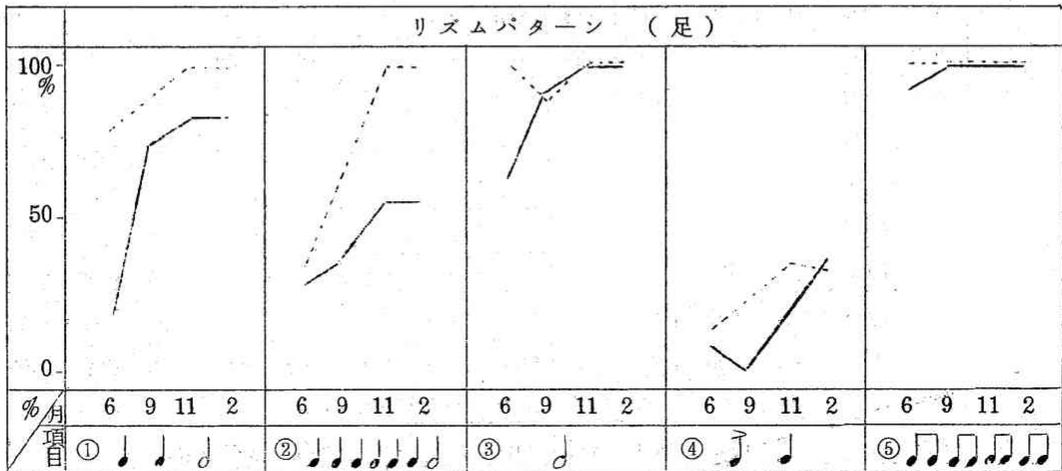
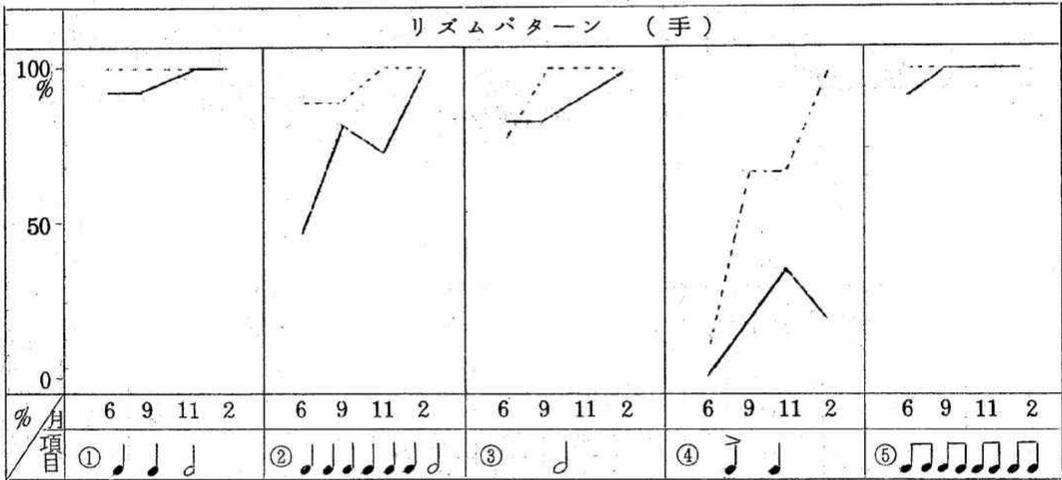
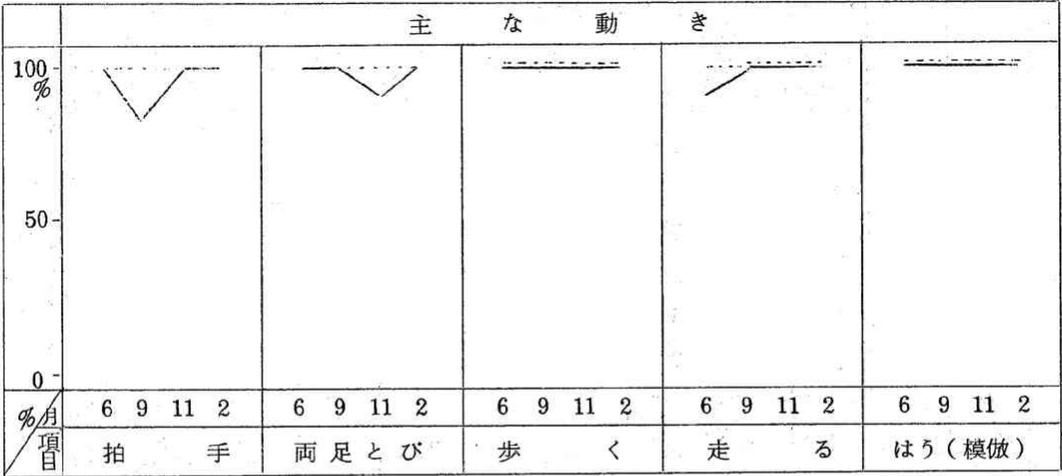
\* 5%の水準で有意差あり    \*\* 1%の水準で有意差あり

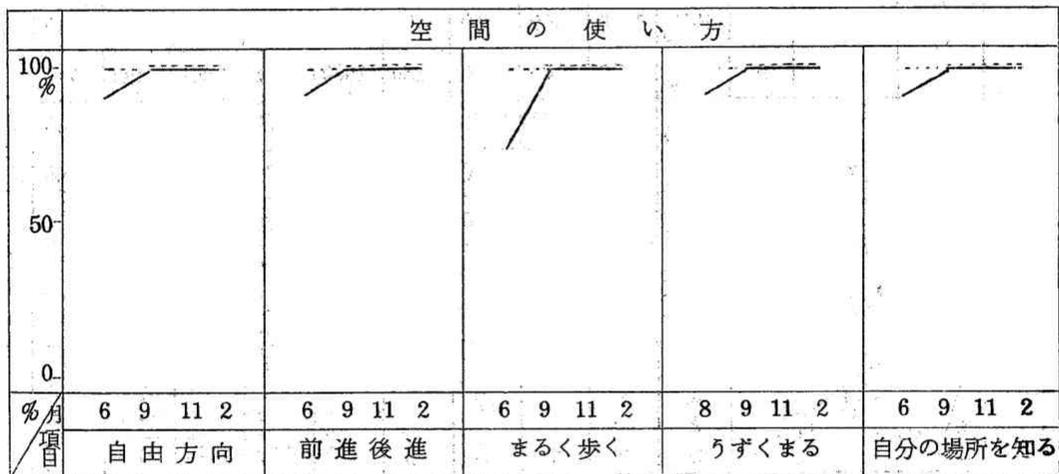
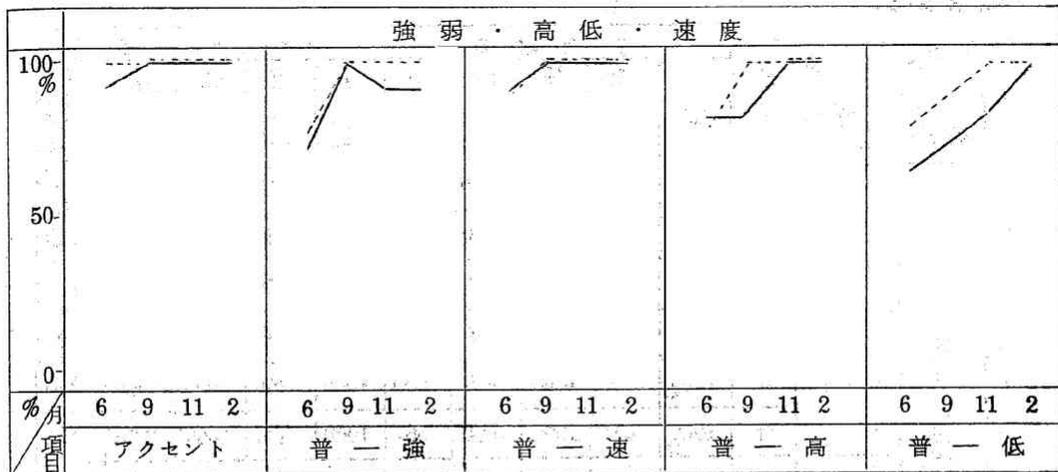
リズムパターン(足)					強弱・高低・速度					空間の使い方				
①	②	③	④	⑤	アクセント	普強	普速	普高	普低	移自由方向動へ	前進後進	まろく歩く	うずくまる	を自分の場る所
182	273	637	90	909	909	727	909	818	637	909	909	727	909	909
778	333	1000	111	1000	1000	778	839	778	778	1000	1000	1000	1000	1000
450	300	800	100	950	950	750	900	800	700	950	950	850	950	950
727	364	909	0	1000	1000	1000	1000	818	727	1000	1000	1000	1000	1000
889	667	839	222	1000	1000	1000	1000	1000	889	1000	1000	1000	1000	1000
800	500	900	100	1000	1000	1000	1000	900	800	1000	1000	1000	1000	1000
818	545	1000	182	1000	1000	909	1000	1000	818	1000	1000	1000	1000	1000
1000	1000	1000	333	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000
900	750	1000	250	1000	1000	950	1000	1000	900	1000	1000	1000	1000	1000
818	545	1000	364	1000	1000	909	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000
1000	1000	1000	333	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000
900	750	1000	350	1000	1000	950	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000

第1図 い

3 才 児

男 ———  
女 - - - -





結果「主な動き」 6月から殆んど上位に達している。

「リズムパターン」

手④ は6月に男児は全員できず、女児は11%であるが、翌年2月には男児は18.2%に対して女児は100%に達している。その他のパターンは2月には100%に達している。

足① は6月に男児18.2%できないものが多いが、11月には81.8%に達している。

② は6月に男児27.3%、女児33.3%で、男女ともにあまりできていないが、11月には男児54.5%に対して女児は100%に達している。

④ は6月に男児9%、女児11.1%で翌年2月に至っても男児36.4%、女児33.3%にしか達していない。

「強弱 高低 速度」 9月にはほとんどできて、2月にはほとんど全員ができています。

「空間」 9月にすでに100%に達している。

→ 一般にリズムパターン(手・足)強弱・高低について、月差ならびに個人差がみられる。(第1表参照)

第 3 表い

年齢	調査月	性別	項目	主な動き					リズムパターン(手)				
				片足とび	スキップ	押す	投げる	ふる	①	②	③	④	⑤
4才児C (三年保育児)	6月	男	600%	600	1000	1000	1000	1000	400	1000	600	0	
		女	750%	500	1000	750	500	1000	750	1000	250	250	
		計	667%	556	1000	889	778	1000	556	1000	444	111	
	9月	男	1000%	400	1000	1000	800	1000	200	1000	1000	0	
		女	1000%	1000	1000	1000	500	1000	750	1000	1000	250	
		計	1000%	667	1000	1000	667	1000	445	1000	1000	111	
	11月	男	1000%	600	1000	1000	1000	1000	0	800	1000	0	
		女	1000%	1000	1000	1000	750	1000	1000	1000	1000	250	
		計	1000%	778	1000	1000	889	1000	445	889	1000	111	
	2月	男	1000%	800	800	1000	1000	1000	800	1000	800	200	
		女	1000%	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	750	
		計	1000%	889	889	1000	1000	1000	889	1000	889	222	

第 3 表ろ

年齢	調査月	性別	項目	主な動き					リズムパターン(手)				
				片足とび	スキップ	押す	投げる	ふる	①	②	③	④	⑤
4才児C (二年保育年少)	41年6月	男	750%	375	688	1000	500	938	188	438	63	0	
		女	1000%	824	647	941	647	941	529	588	765	118	
		計	879%	576	667	970	576	939	364	515	424	61	
	9月	男	688%	563	750	1000	625	1000	438	875	688	0	
		女	1000%	1000	941	1000	882	941	941	1000	941	118	
		計	849%	788	849	1000	758	970	697	939	818	61	
	11月	男	813%	688	875	938	563	1000	625	1000	938	0	
		女	1000%	1000	941	1000	647	1000	1000	1000	941	294	
		計	909%	849	909	970	606	1000	818	1000	939	152	
	42年2月	男	938%	625	750	1000	625	1000	625	1000	938	0	
		女	1000%	1000	941	1000	1000	1000	1000	1000	1000	294	
		計	970%	818	849	1000	818	1000	818	1000	970	294	

リズムパターン(足)					強弱 高低 速度					空間の使い方				
①	②	③	④	⑤	アクセント	普 — 高	強だ んだ くん	高だ んだ くん	速だ んだ くん	移左 右 動へ	っ円 て周 に走 る沿	方 向 転 換	軸 回 転	蛇 行
1000	400	800	400	200	1000	800	1000	800	800	800	1000	600	800	1000
1000	500	1000	500	750	1000	1000	1000	750	750	1000	1000	1000	1000	1000
1000	444	889	444	444	1000	889	1000	778	889	889	1000	778	889	1000
1000	400	1000	1000	400	1000	1000	1000	1000	1000	800	1000	600	1000	1000
1000	500	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	750	1000	1000
1000	444	1000	1000	667	1000	1000	1000	1000	1000	889	1000	667	1000	1000
800	600	1000	1000	400	1000	1000	1000	800	1000	1000	1000	1000	1000	1000
750	750	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	750	1000	1000	1000	1000
778	667	1000	1000	667	1000	1000	1000	889	1000	889	1000	1000	1000	1000
1000	800	1000	1000	500	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000
1000	750	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000
1000	778	1000	1000	667	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000

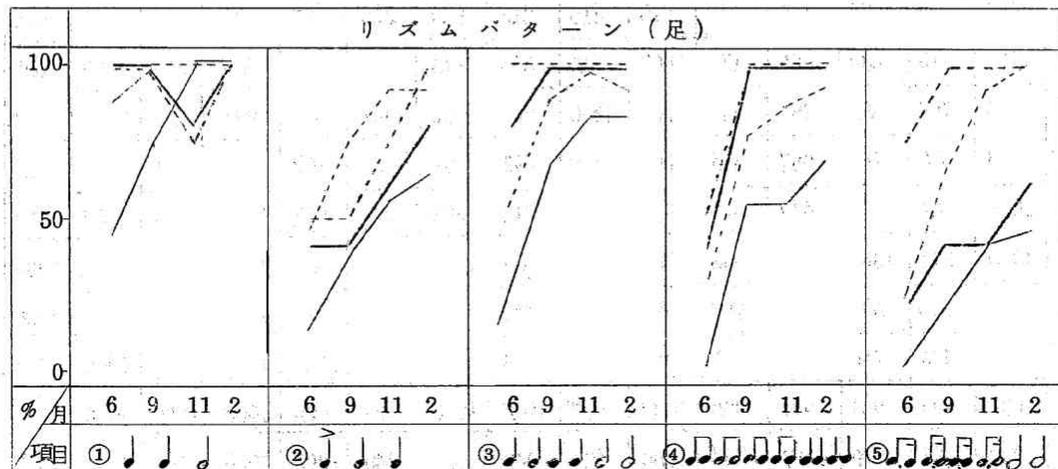
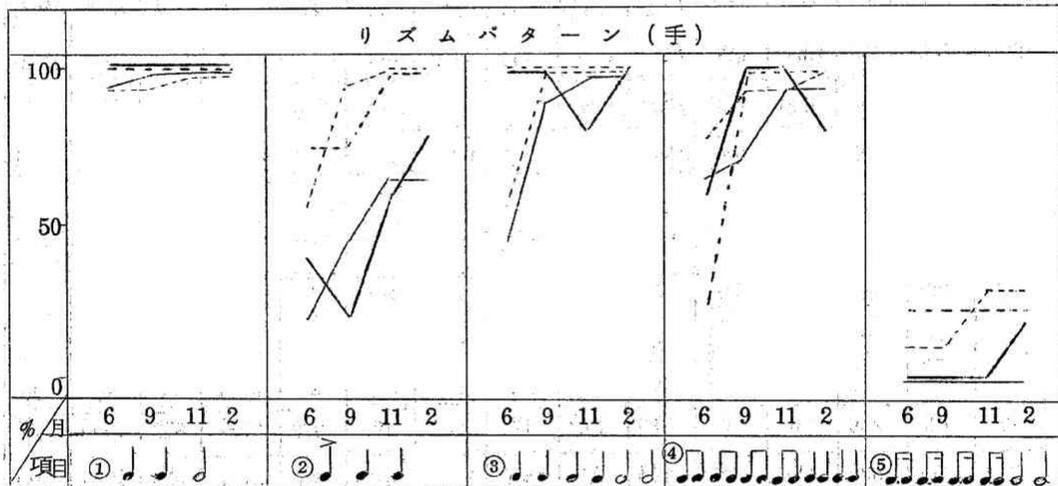
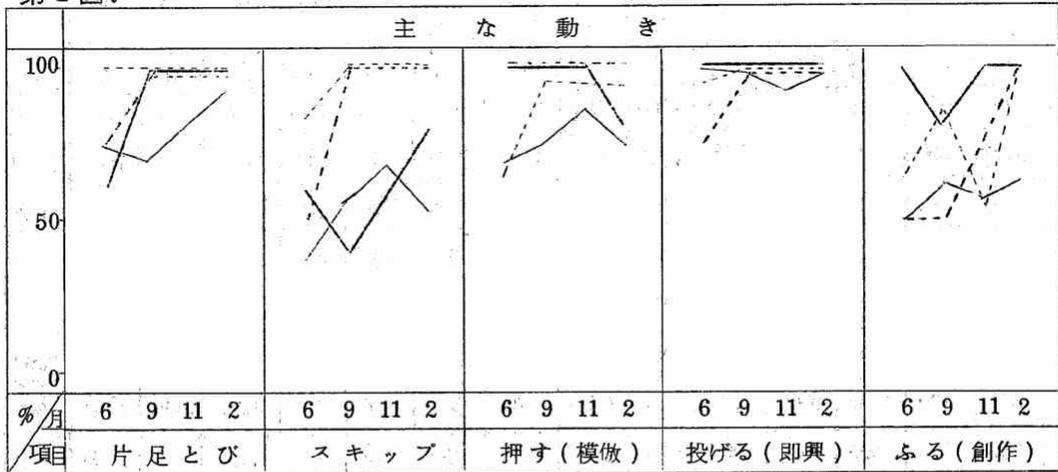
リズムパターン(足)					強弱 高低 速度					空間の使い方				
①	②	③	④	⑤	アクセント	普 — 高	強だ んだ くん	高だ んだ くん	速だ んだ くん	左 右 へ 移 動	て円 周 に 走 る っ	方 向 転 換	軸 回 転	蛇 行
488	125	250	0	0	813	813	125	938	125	688	1000	375	1000	1000
882	471	529	294	235	824	824	412	1000	529	235	1000	353	1000	941
667	303	394	152	121	818	818	273	970	273	455	1000	364	1000	970
750	375	688	563	188	1000	625	875	875	250	125	938	563	1000	1000
1000	765	882	765	647	1000	1000	1000	1000	941	471	941	471	1000	1000
879	576	788	667	424	1000	818	939	939	606	182	939	515	1000	1000
1000	563	750	563	375	875	875	813	938	875	875	1000	875	1000	1000
1000	941	1000	882	941	1000	1000	882	1000	1000	588	1000	1000	1000	1000
1000	758	879	727	667	939	939	849	970	939	727	1000	939	1000	1000
1000	375	750	688	438	1000	875	875	875	875	1000	1000	813	1000	1000
1000	941	941	941	1000	1000	882	1000	1000	824	824	1000	1000	1000	1000
1000	667	849	151	727	1000	879	939	939	849	909	1000	909	1000	1000

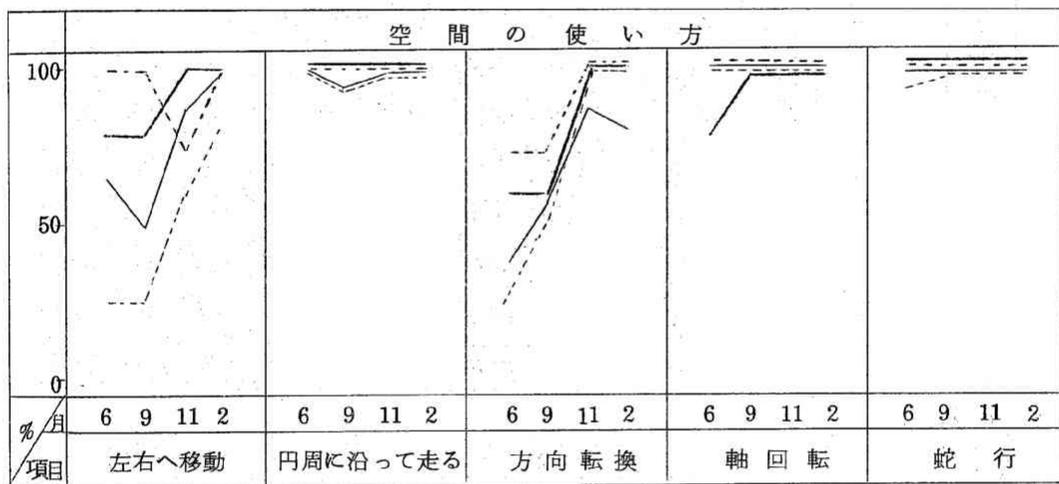
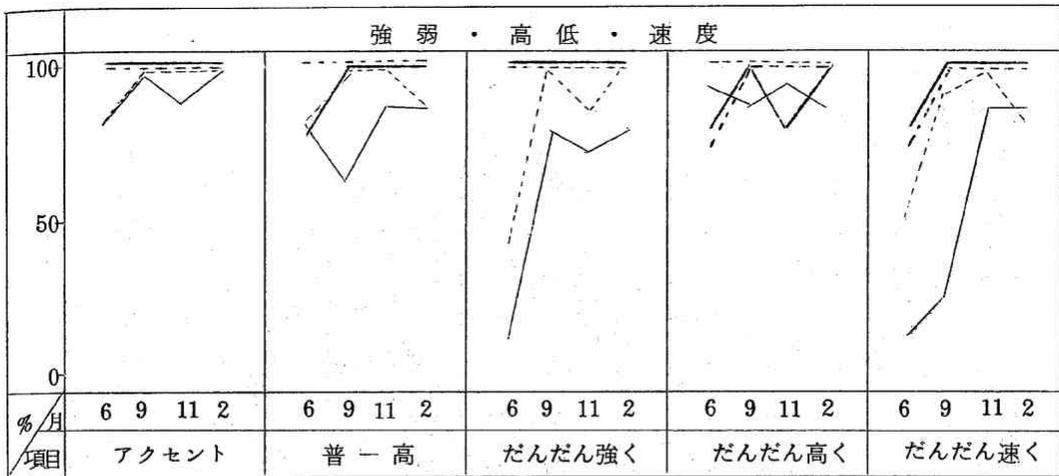
第2図い

4 才 児

A男 ———  
A女 - - - -

O男 ———  
O女 - - - -





結果「主な動き」

「スキップ」について女兒は9月に100%に達しているが、男児は2月になってA群80% C群62.5%である。

「リズムパターン」

手② は女兒は6月にA群75% C群53%で2月にはA、Cともに100%に達しているが、男児は6月にA群40% C群18.7%で2月に至ってもA群80% C群62.5%であり男女差が大きい。

⑤ は、女兒は男児よりやや上位にあるが、2月に至ってもA群女兒25% C群女兒29.4% A群男児20% C群男児0%である。

足⑤ は、特に男女差が大きく、女兒はA群が9月から100%に達し、C群も2月には100%に達しているのに対して、男児は2月に至ってもA群50% C群44%にしか達していない。

「強弱 高低 速度」

「だんだん速く」「だんだん強く」は、C群の男女ともに6月には23%しかできていない。しかし、「だんだん強く」は9月に93%「だんだん速く」は11月に93.9% できている。

「空間の使い方」

「左右への移動」はC群女兒が6月に23.5%で目立ってできていない。

「方向転換」はC群の男女とも6月に36.4%でやや劣っているが2月には90.9% できています。一般に全項目にわたって月差、ならびに個人差がみられる。(第1表参照)

第 4 表 い

年齢	調査月	性別	主な動き					リズムパターン(手)				
			前 け り	ホ ッ プ	屈か からだ 伸の	た たく (即興)	引 (創作)	①	②	③	④	⑤
5 才児 A (三年保育年長)	41年6月	男	1000%	250	1000	1000	750	750	1000	750	750	1000
		女	1000%	600	800	800	600	1000	1000	800	800	600
		計	1000%	444	889	889	667	889	1000	778	778	778
	9月	男	1000%	500	1000	750	750	1000	1000	750	1000	1000
		女	1000%	800	800	1000	200	1000	1000	800	1000	1000
		計	1000%	667	889	889	444	1000	1000	778	1000	1000
	11月	男	1000%	750	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000
		女	1000%	800	1000	1000	600	1000	1000	1000	1000	800
		計	1000%	778	1000	1000	778	1000	1000	1000	1000	889
	2月	男	1000%	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000
		女	1000%	1000	800	1000	800	1000	1000	1000	1000	1000
		計	1000%	1000	889	1000	889	1000	1000	1000	1000	1000

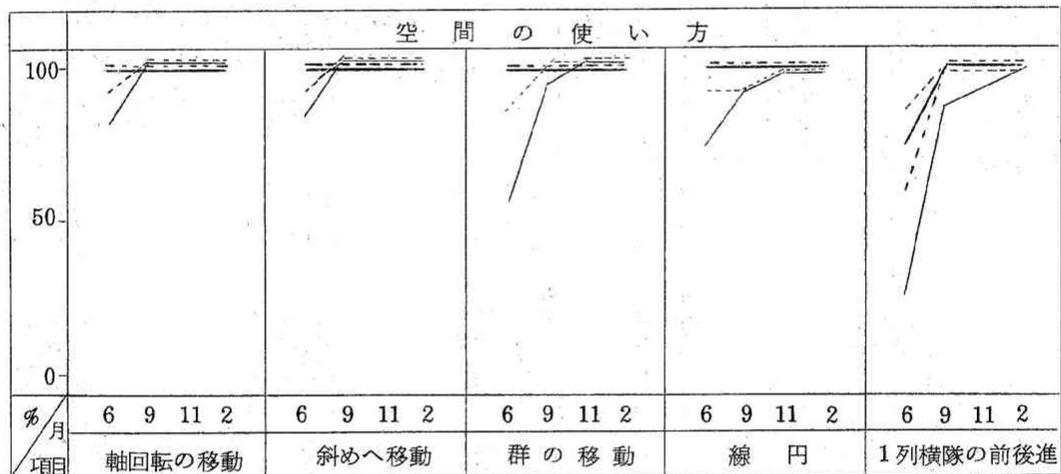
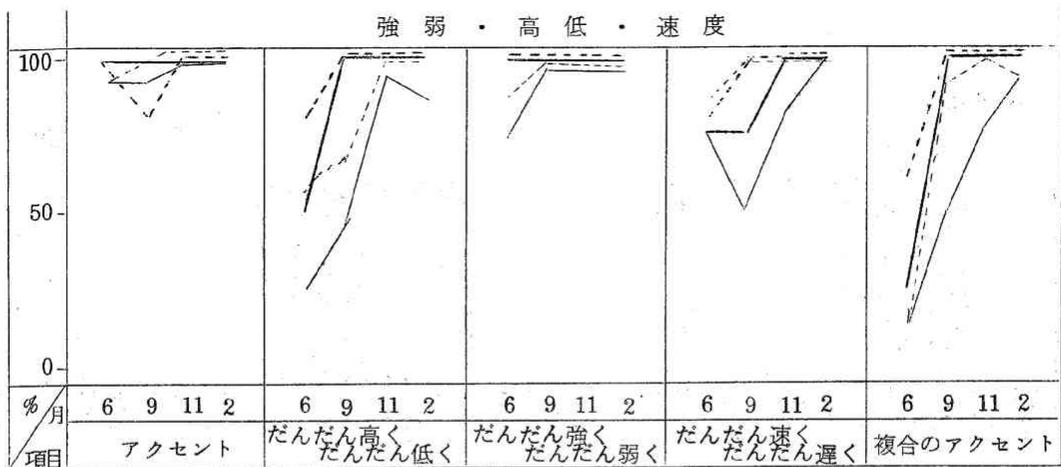
第 4 表 ろ

年齢	調査月	性別	主な動き					リズムパターン(手)				
			前 け り	ホ ッ プ	屈か からだ 伸の	た たく (即興)	引 (創作)	①	②	③	④	⑤
5 才児 C (二年保育年長)	41年6月	男	875%	375	688	625	500	750	688	438	688	563
		女	1000%	438	1000	625	438	875	688	813	688	813
		計	938%	406	844	625	466	813	688	625	688	688
	9月	男	688%	375	813	938	375	875	875	500	563	625
		女	1000%	750	1000	938	500	938	938	813	938	1000
		計	844%	563	906	938	438	906	906	750	750	813
	11月	男	938%	688	750	1000	500	1000	938	750	875	813
		女	1000%	813	938	1000	438	1000	1000	1000	938	813
		計	969%	750	844	1000	466	1000	969	875	906	813
	2月	男	1000%	938	1000	1000	625	1000	1000	938	938	938
		女	1000%	938	1000	1000	625	1000	1000	1000	1000	1000
		計	1000%	938	1000	1000	625	1000	1000	969	969	969

リズムパターン(足)					強弱 高低 速度			空間の使い方								
①	②	③	④	⑤	アクセント	だんだん低く	だんだん高く	だんだん弱く	だんだん強く	だんだん遅く	複アクセント合	移軸回転の動	斜めへ移動	群の移動	線 ・ 円	前 一 列 後 横 隊 進 の
750	750	1000	750	1000	1000	500	1000	750	250	1000	1000	1000	1000	1000	1000	750
600	400	800	600	600	1000	800	1000	800	600	1000	1000	1000	1000	1000	1000	600
667	556	889	667	778	1000	667	1000	778	444	1000	1000	1000	1000	1000	1000	607
750	750	1000	750	1000	1000	1000	1000	750	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000
800	600	600	600	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000
778	667	778	667	1000	1000	1000	1000	889	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000
1000	750	1000	750	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000
1000	800	800	800	800	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000
1000	778	889	778	889	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000
1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000
1000	800	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000
1000	889	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000

リズムパターン(足)					強弱 高低 速度			空間の使い方								
①	②	③	④	⑤	アクセント	だんだん低く	だんだん高く	だんだん弱く	だんだん強く	だんだん遅く	複アクセント合	移軸回転の動	斜めへ移動	群の移動	線 ・ 円	前 一 列 後 横 隊 進 の
438	313	688	63	563	938	250	750	750	125	813	875	563	750	375		
438	563	813	313	813	938	563	875	875	125	938	938	875	938	875		
438	438	750	188	688	938	406	813	813	125	875	906	719	844	625		
625	438	625	438	625	938	438	1000	500	500	1000	1000	938	938	875		
875	938	875	625	1000	1000	688	1000	1000	938	1000	1000	1000	938	1000		
750	688	750	531	813	969	563	1000	750	719	1000	1000	969	938	938		
875	875	1000	500	813	1000	938	1000	813	750	1000	1000	1000	1000	938		
1000	938	938	938	813	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000		
938	906	969	719	813	1000	969	1000	906	875	1000	1000	1000	1000	969		
938	875	938	875	938	1000	875	1000	1000	938	1000	1000	1000	1000	1000		
1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	938	1000	1000	1000	1000	1000		
969	938	969	938	969	1000	938	1000	1000	938	1000	1000	1000	1000	1000		





結 果「主な動き」

「ホップ」と創作の「引く」の動作は、A群男児が11月に100%、女兒は60% で他群に比べて非常によくできている。「ホップ」は各群とも回を追って漸増し2月にはほとんど100%に達している。

「リズムパターン」

手 ③ ♪♪♪♪♪。 についてC群男児は6月43.8%で、とくにできていないが、2月には93.8%に達している。

足 全般にC群男児が他に比べて劣っている。とくに④ ♪♪♪♪ は6月に6.3%で非常に低い。しかし回を追って漸増し、2月には87.5%に達している。

「強弱・高低・速度」

「複合のアクセント」は男児の6月A群25% C群12.5%で、9月にはC群男児52%であり、他の群はほゞできている。しかしC群男児も漸増し、2月には93%に達している。

「だんだん高く、だんだん低く」はC群男児が6月に25%であるが、11月には93%に達している。全般的にC群の男児が他に比べて劣っている。

「空間の使い方」

A群の男女は、6月から100%できている。

「群の移動」「一列横隊の前後進」はC群の男児が6月56.3%、37.5%で他の群に比べてやや劣っているが、2月にはほゞできている。

一般に調査全項目にわたって月差ならびに個人差がみられる。(第1表参照)









スキップについて、女兒は当園の遊びの中でよく表現しているが、男児は単に走りまわっている。ここに大きな男女差が表われたことに驚かされた。

「リズムパターン」

② ♪♪♪ は 11月にできるようになったことから、この動きは 2学期の終り頃にとりあつかうことが好ましいと考えられる。

⑤ ♪♪♪♪♪♪♪♪ の ♪♪ の部分は足ではできているが、手のリズム打ちのむつかしいものがあり、また ♪♪ は ♪♪ の動きの惰性によって、急速に身体をとめることがむつかしいのであろう。④ ♪♪♪♪♪♪♪♪ も⑤とおなじく、ともに 11月前後に教材をとり入れるよう配慮することが適当と思われる。

とくに③ ♪♪♪♪♪♪♪♪ ④ ♪♪♪♪♪♪♪♪ について、A、C群に差がみられるのは、A群についてはこういうパターンを含む動きを過去によく習得していたためと思われる。

「強弱、高低、速度」「空間の使い方」

だんだん速く、だんだん強くに、A、C群の差がみられるのは、A群は 3才児での学習効果のあらわれと言えようか。

(3) 5才児

「主な動き」

創作の引くは、その場で引く動作と引きながら移動する動作の表現上のちがいをみたのであるが、全般的にパーセンテージが低いのは、検査者に理解されるような表現をすることがむつかしかったものと思われ、この点については、更に研究をすすめていきたいと考えている。A群の男児は目だってよくできている。かれらは、他の分野においても創造的意欲が旺盛であり、活動全般に能動的な態度が見られる。

ホップは、指導計画の中でも活用されているので、順調にのびたものと思われる。

「リズムパターン」

いずれも第1回調査時に比べ、後に至るほど順調なのび率をしめしている。リズムパターンに対する感覚と表現技術が順調に成長した表われであろう。

一般に手で反応することは、足のそれよりははやいと言われるが、その傾向がこの表にも如実に表われている。(教育学叢書 身体発達と教育 参照)

C群の男児の向上が顕著であるのは、生活環境の中で、他の幼児の活動に影響されたものと思われる。

「強弱、高低、速度」「空間の使い方」

上記と同様の傾向がみられる。

(4) まとめ

以上をまとめると次のようである。

① 年齢相応の標準について

特にむつかしかったもの例えば、3才児の  $\overset{\curvearrowright}{\text{♪}} \text{♪}$  4才児の  $\text{♪♪} \text{♪♪} \text{♪♪} \text{♪♪} \text{♪} \text{♪}$  (手)  
とくにやさしかったもの、例えば3才児の歩く、走る、はう、5才児のアクセントなどを除  
いて、ほぼ当園の幼児に適切な調査項目であった。

この調査を参考にして今後更に指導計画の改善をはかっていきたい。

② 保育による学習効果について

A, B, C群とも1%水準で検査月による有意差があり、検査月毎に向上している。

また保育年数による学習効果については、3年保育をうけたA群は、2年保育のみのC群  
よりすぐれた傾向が見られる。

なお3才児では「強弱、高低、速度」や「リズムパターン」に1%の水準で個人差があり、  
4, 5才児では、調査全項目にわたって1%の水準で、個人の有意差がみられるので、個人  
の能力をみきわめての指導法を考慮していきたい。

③ 動きのリズムにみられる男女差について

4才児の  $\text{♪♪} \text{♪♪} \text{♪♪} \text{♪♪}$  ,  $\overset{\curvearrowright}{\text{♪}} \text{♪♪}$  などは女兒が優れ、創作表現は男児がすぐれていた。  
これらは表現技術と音楽的感覚に関係があり、日常経験のちがいや興味にも影響されると思  
うので、これらの原因その他については今後の研究にまとめたい。

以上の結果は当園におけるこの度の調査によるものであるが、これらがはたしてこの年齢のどの  
園児にも適合するものか否かについては、まだ、研究の余地がのこされているので、皆様の御協力を  
得てそれらの点を明らかにしていきたい。

## 参 考 資 料

当園園児の精神・身体の発育状態 (昭和41年度)

① I Q

第 5 表

I Q 年令		平 均		備 考	
				最 高	最 低
3 才		男	1135	157	90
		女	1214	161	100
4 才	A	男	1358	162	105
		女	1338	147	118
	B	男	1313	159	103
		女	1109	149	98
	C	男	1304	161	92
		女	1295	169	95
5 才	A	男	1330	154	109
		女	1289	156	110
	B	男	1212	131	111
		女	1340	156	110
	C	男	1163	145	87
		女	1233	136	101

調査時期 41年6月

② 身体測定統計

第 6 表

項目	年令 性別	3 才 児		4 才 児		5 才 児	
		当 園	全 国	当 園	全 国	当 園	全 国
身長	男	98.7cm	97.8cm	104.0	103.4	110.9	108.8
	女	98.6	96.7	103.0	102.3	108.8	107.7
体重	男	15.3kg	15.3	16.6	16.6	19.3	18.2
	女	14.9	14.9	15.8	16.2	17.9	17.7
胸囲	男	52.1cm	53.1	53.8	54.2	56.2	55.7
	女	51.0	51.9	51.1	52.9	53.4	54.3
座高	男	56.8cm	56.5	58.5	59.1	62.4	61.8
	女	56.3	55.9	57.3	58.4	61.6	61.1

(41年5月)

### Ⅲ 指導の実践

実態調査の結果、3才児・4才児・5才児の各年齢別に与えるべき「動きのリズム」に関する基本的な要素を前章で究明できたので、これを軸として各年齢にふさわしい具体的な指導内容を選びかつ他領域との関連をも考慮し、実践的な展開例を構成した。

つぎにその事例を各年齢別にあげてみよう。

## 3 才 児 の 指 導

### 1 動きのリズムに見られる3才児のすがた

#### (1) 休みなく動くことを好む。

幼児はじっとしていることができない。とくに3才児は、歌いながらからだをゆする、手をたたき、いすに腰かければ足をぶらぶらさせる、いすをかたかたならす、というように、絶えずからだを動かしている。

「歩きましょう」と言えば、「道が走らせるの」と言って、歩こうと思っても自然に走り出してしまふ程である。

動きの表現の特徴としては、からだの均衡やコントロールがとれないので両足とび、四つ這いなどの安定のよい動きが多く、片足立ちのような不安定な表現は少ない。また、あるポーズを保つことも困難である。

速度は普通より速いテンポを好み、また、極端な遅速や強弱には興味を示し、その変化に気づくが、それに反応してからだで表現することはむづかしい。

空間形成についても、その活動の範囲は狭く、空間を十分活用して散開することはできない。

#### (2) 具象物になりきって動く。

具象物に同化してしまう傾向が強く、具象物の形や、その特徴をとらえてからだで表現しようとするよりも、自分がそのものになりきってしまっている姿が多い。即ち、とらでも、いぬでも同じように床上に四つ這いになり、鳴き声を変えることによってそのものを表現して楽しんでいる。またその具象物のとらえ方も、表面的な形を模倣する程度で、その生活様式や生態の特質をとらえることは少ない。

#### (3) 興味のうつり変りが激しい。

動きの表現活動をさせるとき、その活動過程で興味がうつり変ったり、他の活動と混同されたりする。例えば、うさぎになって机の下にもぐりこむとかくれんぼをすることに興味がうつってしまったり、ふたの表現をしているとき、3匹のこぶたの家づくりを思い出して大積木で

家をつくり出し、リズム遊びを中断したりする。

## 2 指導の観点

- (1) 想像遊びを楽しませ、十分自己を表現させる。

未分化でアニミズムの傾向の強い3才児は、想像遊びの中で自己を表現している。その特性を十分発揮させて自己表現を楽しませながら、動きやことばなどで十分自己を表現させる。

- (2) 具体経験をさせ表現を豊かにする。

具体物に触れ、体験をさせて幼児自身の目で見つめ、子どもらしい発見をしてそれをありのままに表現できるようにする。即ち、おとなの表現の模倣ではなく、幼児自身の経験による感動を、幼児自身の方法で表現させるようにする。

- (3) さまざまな動作を身につけさせる。

3才児はからだの形も不均衝で、運動能力も未熟であるため、からだのこなしが不器用で動きの範囲も狭く、表現方法もあいまいである。従って運動遊具を十分使って遊ばせたり、教師の動きを模倣させたりして、偏りのない運動によって身体各部を動かす機会を多く与えて、手・足・からだの動かし方にいろいろの方法や種類のあることを体験によって知らせるようにする。

- (4) 音やリズムに対する感覚を養う。

3才児の身体的発達の特質から、リズムに合わせて美しくからだで表現させることは無理であるが、音楽的感覚を養うことによって動きの表現を助長することができる。即ちリズムカルな動きを楽しませるとともに、いろいろなリズムパターンや強弱、高低、速度、美しい音楽を日常生活の中にとり入れて、それに親しむ機会を多く与えて、音やリズムに関心をもたせ、その感覚を養うようにする。

## 3 実際指導例

- 例1. 動物と遊び、見たまま、感じたままを動きに表現する。

〔かたつむり〕 — 5月 —

かたつむり、青虫などを飼育し、毎朝餌をやったり、虫めがねで見たりして楽しんでいた。ある日、やどがえ遊びのときに、「でんでん虫、でんでん虫、おやどをかかわろ」というとM児は、かたつむりの表現に、の形で、うしろにのびた足をひきずるようにして前進した。それ以前の表現は、しゃがんで両手を頭上につけてつものようにして前進していたが、毎日の観察によって、かたつむりが殻のうしろから、からだをひきずって前進する様子を見たため、表現にこのような変化が見られた。

〔うさぎ〕 — 6月 —

うさぎの表現は一樣に、立って両手で耳を作り、両足とびをする動作であり、四つ這いになるものはひとりもなかった。これは、テレビなどで見ておぼえた表現であろうと思われた。そこで、ある日、2匹のうさぎを教室にはなして遊ばせてみた。

はじめは、皆うさぎをつかまえたがり、先を争って、うさぎのまわりに集った。うさぎはつかまるまいとして逃げまわり、子どもたちは、争いながら追いかける、という状態がしばらく続いたので、教師が「うさぎさんはおさんぼの時間よ。みなさんも、うしろからついていっしょにさんぼしましょう」と誘いかけた。4、5人がうさぎと同じ動作をしながらうさぎのうしろを並んでとぶ。うさぎがびょーんと大きくはねたので、すぐうしろについていたY児が同じようにびょーんととんだために、思いきり、ひたいを床に打ちつけた。見ていた数人が大笑いをする。M子は「うさぎさんはじょうずね」とまじめである。この時のうさぎの表現は、の形で、1で両手を前進させ、2で足をびんとうしろにはねるようにして、ひざを前進させる。という動作をした。

うさぎが、うしろ足をびんとはねながらとぶ様子がよく表現され、幼児自身その動きを楽しんでいた。そこで教師は2拍子のピアノ伴奏をして幼児の動きに合わせてやった。

この経験をした後は、うさぎの表現は、両足とびや上記の表現に合わせて、うさぎがのび上って鼻をびくびくさせる動作、机やいすの下をくぐりぬける動作など変化に富んだ模倣表現をするようになった。

例2 想像遊びを楽しませながら、いろいろなからだの動きをさせる。

〔ジャングル探険〕 — 5月 —

奈良県公会堂へ遠足に行った時のことである。公会堂の庭の深い森を見てK児が「先生、探険に行こう」と言ったのでみなで探険ごっこを始めた。谷を見下ろして「人喰いざめがいる」あせびの茂みを見て「とらが出た」藤の古木を見て「へびだ」などと夢中である。ただはしゃいで走りまわる子どもたちを集めて、子どもの発見にともなって「とらがいるから見つからないように、みんなできるだけからだを小さくして、音をたてないように向うへ行きましょう。」「この木の茂みの下を大急ぎで向うまでくぐりぬけましょう。」「Kちゃんたちがくまをやっつけるまでみんな、木の枝にぶらさがりましょう。」「わくに食べられないようにこの川をとび越せるかしら」「らいおんがきた。しばふの山をころがって逃げましょう」などと、その動作を意識づけながら、いろいろなからだの動きを体験させた。

翌日、教室でこの探険遊びを再現したところ、話の展開にしたがって各幼児が活発に、ころがったり、くぐりぬけたり、腹這したり、とんだりして表現を楽しんだ。

例3 リズミカルな動きを楽しませながら、音やリズムに関心をもたせる。

[ゲーム遊び] — 9月 —

遊戯室で「すわり鬼」をさせた。鬼を追いかける。逃げるものがしゃがんだらつかまえてはならないという鬼遊びである。嬉々としてかけまわっている幼児の動きに合わせて、追いかけている間は、かけ足のリズムをピアノで弾き、つかまえたらピアノの音を止め、鬼が交代したらまた、ピアノを弾く、ということを一時的に続けてピアノの音に馴れさせ、つぎに、つかまらないうちに、ピアノの音を突然止めたところ、走り廻っていた幼児が全員停止した。それを繰り返しているとピアノが鳴っている間は走り、止ったら全員がしゃがむようになった。このようにピアノの音に関心を示すようになったので、鬼がなかなか相手をつかまえることができなかつたり、疲れを知らずに走りまわったりする幼児をコントロールするのにも役立った。

ゲーム開始前にピアノに合わせて、追いかけてくるように約束しても、3才児はなかなかそれに従うことはできないが、遊びをつづけているうちに、感覚としてとらえた時には、速度や音の合図に従って遊びを楽しむことができる。

[まねっこ遊び] — 4月～10月 —

リーダーの動作をまねる遊びである。

体形は人数や空間の広さによって次のように変えることができる。

- ・リーダーと向かい合って自由に散開
- ・円心のリーダーに向って、円周上に立つ
- ・リーダーも円周上に立ち一同円周上を同方向へ移動
- ・リーダーもともに自由方向へ移動

教師の動作を模倣することを好むので、3才児に適したリズムパターンや動きを模倣させる。動きの例を2・3掲げる。

・あひるが があ があ があ 

 1拍1動作であひるになって前進

 止って両腕を振りながらひざを屈伸

・大きなおなかで ポンポコポン 

 4拍で両腕を体前でまるくして大きなおなかを表現

 前けりを3回すると同時に腕は交互に腹づつみ

・チョロ チョロ りすさんびょーん 

 小走りで前進

 1拍目でふみ切るとび、2拍目で着地

・ トントントーン トントントーン だいくのおじさん トントントーン



パターンに合わせて上下，左右，前後の空間を金槌でたたく動作

教師がリーダーになるだけではなく，代り合って幼児をリーダーとする。

例 4. 興味のある題材を選んで，表現を豊かにする。

〔のりものあそび〕 — 11月 —

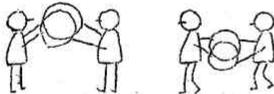
輪とり遊びなどに使う竹の輪を1つずつ持たせ，幼児の好む乗り物を表現させたところ，大変喜んで遊んだ。表現の主なものをあげてみる。

自 動 車



両手で輪を持って，手首を動かしてハンドルを操作する表現をしながら走る。

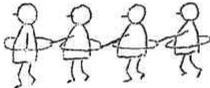
電 車



○トンネルは2人向い合ってお互に相手の輪を持って高くかかげる。

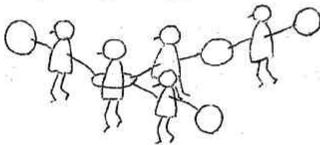
○電車は，図のように2人で2つの輪を持ち輪を上下に振りながら走る。

列 車



○輪の中に胴体を入れて，一方の手で自分の輪を持ち，他の手で前者の輪を持って連なって走る。

飛 行 機



○図のように3人が1列横隊になり，中央の幼児のうしろに何人かの幼児が連なり自分の輪を差し出して友だちに持たせて走る。

舟



○2人向かい合って腰をおろし，互の足を合わせ，2つの輪を両手で持ち，からだを前後にたおす。

また輪を持ったまま2人が体を側方にたおす。

ロ ケ ッ ト



○両手で輪を持ち，頭上にかかげてひざを屈伸させてからとんで走り出す。



このように用具を与え、幼児の表現を豊かにする興味ある題材をみつけさせるととくに喜んで遊ぶ。この乗物遊びの際に、ピアノ伴奏の強弱、速度に変化をつけて奏するとその音に反応して表現を楽しんだ。

この遊びでは、友だちといっしょに表現しようとする姿も多くみられ協同性社会性も培われたように思う。

幼児の経験した動きの要素は次のようなものである。

主なからだの動き

- 腕の上下、前後の動き
- 手首の回旋、握る
- 体の屈伸（前後、左右）
- 歩く、走る、とぶ

強弱、速度

- 速い、遅い、遅 → 速 → 遅、急速な停止

空 間

- 移動（自由方向、曲線、群）

〔おもちゃ遊び〕 — 12月 —

電池で動くロボット、ミキサーカー、ダンプカーなど、ねじで動くてんとうむし、さる、コックさんなど、はずみ車で動くバトロールカー、オートバイなどのおもちゃを持たせて数日遊び、レコード（おもちゃの交響曲、時計やの店）などを聞かせた後の動きの表現は次のようであった。

ロ ボ ッ ト



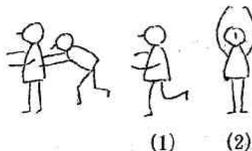
- ひざをまげずに重々しく歩く。 ♪♪
- 遊んだおもちゃが故障していたので片足をひきずって歩く。
- 方向をかえる時にも、からだを硬直させてゆっくり転換する。

さ る

手は体前で、シンバルをすりあわせる動作をする。

足は前けりをする。 ♪♪♪

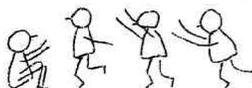
ミキサーカー



(1)でハンドルを操作する格好で走る（8呼間）

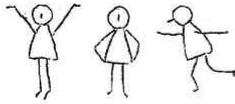
(2)で両手を頭上にあげて軸回転する（8呼間）

サンダーバード



サンダーバード1号、2号、3号と言いながら2拍ほどの間隔をまけて、つぎつぎにとび出す。

## 人 形



- (1)すり足で前進（8呼間）手は前や横にひらく。
- (2)両手を頭上にのぼして軸回転（6呼間）
- (3)ひざをまげる（2呼間）

## てんとう虫

しゃがんで腰を左右に振るようにして数人が続いて前進しねじがゆるむと止る。

この表現遊びではおもちゃの種別ごとにグループをつくって、あるパターンを幼児の動きの中から選んでピアノ伴奏したので、そのパターンで動きをくふうして一定のパターンのくり返しを楽しんで表現し、動きに3才児なりのまとまりが見られた。互に他のグループの表現を観賞させたのもよかった。

自由な動き、自由なリズムで表現させるだけではなく、3才児の後半には一定のリズムパターンの連続で動きを表現させると、そのリズムパターンをとらえてからだでの表現をくふうしようとする気構えができる。表現の途中で、おもちゃが故障した、電池やねじがきれたといった、動きを止める幼児があるとつぎつぎにそれをまねて、教師がねじを巻いたりしてくれるのを待つ幼児が多くあらわれたので、止ってしまったおもちゃの修繕のしかたを考えさせて興味の転換をはかった。

## 4 ま と め

創造的表現をめざす3才児の動きのリズムの指導においては、指導の観点でも述べたように、まず生活経験の巾を広げて、幼児の身近に接する事物、事象に興味関心をもたせ、新しい発見や感動を得させて思いのままに自己表現させること、音楽的感觉を養い感受性を育てることが必要であり、指導にあたっては、3才児の特性である意味づけ遊びによる即興的、模倣的表現を活発にさせるようにしなければならない。

次に、指導の実際面における留意事項を掲げてみよう。

- (1) 教師の動作を模倣させる場合は、その動きで固定概念をつくらないように注意する。

3才児は動くことが即ち遊びであり、教師の動きを模倣することを喜ぶので、教師の動きを模倣させてからだの動きの種類や方法を知らせる。しかし、この場合全面的に教師の表現に依存し、表現が固定化するおそれもあるので、動作を示す場合、例えば星は頭上で手首を回旋する。そこの表現は片手を振って鼻をつくるといった表現を固定化して示すことは好ましくない。

同じひとつの表現が、いくつかのイメージを生み出すものであったり、ひとつの動物の表現にもいろいろの形式や動作のあることを知らせるようにすることが必要である。

- (2) 幼児の遊びや即興的表現にあらわれる動作や表現を意識づける。

幼児の何げない動作の中に、うずくまる、のびあがる、這う、とぶなどの動きの要素が含まれている。これらの動きが何を表現し、そして他の動作とどのように異なるかを意識づけ、それらの動きを意識して活用できるようにして、からだの動かしかたや、表現の方法を身につけさせるようにする。

- (3) 意識して目立った行動を示した場合、それをくふう表現として方向づける。

おとな依存の気持の強い3才児は、リズム遊びの際に目立った行動をして、教師の関心を得ようとするものがしばしばある。例えば「かえるが自動車にひかれてつぶれてしまった」「自動車のタイヤがパンクして動かない」などと言って友だちを笑わすような行動をするが、これはくふう表現というよりも、教師にことばをかけてもらいたいための行動である場合が多いように思われる。

このような時は、これらの行動を教師が意義づけて、表現のくふうとして方向づける努力が必要である。

- (4) リズムパターン、空間、強弱、高低、速度は単に動きの表現としてだけではなく、楽器遊びやゲームなどに関連して習得させる。

3才児の動きの表現は、即興的表現が主体であり、リズムパターンや高低などを感覚的にはとらえられても、からだで表現することはむづかしい場合が多いので、楽器遊びやゲームなどで経験させ、音楽的感覚を養って、動きの表現を助長する必要がある。

- (5) 個々の自由な動作表現を尊重しながら、友だちの表現にも関心をもたせる。

3才児は自分本位な表現を楽しみ、友だちの表現を觀賞したり、友だちと相談して表現したりすることは少ない。しかし、友だちとともに遊んだり、表現したりする楽しさを知らせるような活動を多く与えたり、代りあって表現させたりして、漸次、友だちの表現にも関心をもたせるようにし表現方法をくふうしようという気持をもたせるとともに、友だち意識をもたせていく。

## 4 才 児 の 指 導

### 1 動きのリズムに見られる4才児の姿

4才児の動きのリズムにおける表現活動は3才児よりもやや活発で、動きの要素にみられる発達  
は月を追って上昇し、リズムカルな動きを楽しむことができるようになる。当園では3才児教育を  
受けて進級した者と、2年保育の新入園児と混合編成されている。試みに42年度5月に4才児A  
群(20名)B群(20名)の園児について、41年度4才児の調査項目と同一の調査をおこなっ  
て両者の比較をした。

1表に見られるように、4才新入園児の実態は次の通りである。

- イ 「主な動き」……「片足とび」「押す」「投げる」などの動きはたやすくできるが「スキップ」  
はわずか15%の幼児しかできない。  
「ふる」動作はほとんどの幼児ができるが、動きに変化をつけて創作できたのは  
25%である。
- ロ 「リズムパターン」……①♪♪の手拍子以外は、どのパターンもとらえにくく、複雑にな  
るに従って、できるものは5~20%程度となる。
- ハ 「強弱、高低、速度」……普一高への変化は40%の幼児ができるが、「だんだん高く」「だ  
んだん速く」などの変化は感覚としてとらえられていても動作に非常に表現しに  
くい。
- ニ 「空間の使い方」……75%の幼児がきめられた空間の線上を指示通り走ったりして空間のき  
り方を理解することができる。

それに比べて、3才児教育を受けたものは、4才新入園児よりも全般によくできている。即ち、  
両者間には、「主な動き」「空間の使い方」には差はないが、「リズムパターン」の手の動きには  
5%水準で有意差があり、「リズムパターン」の足、「強弱、高低、速度」では1%の水準で有意  
差がある。

このように4才新入園児は3才児教育を受けた4才児よりも全般に劣り、クラス成員30名中、  
24名まで新入園児であれば、指導面に於ては必然的に新入園児対象となる。これら動きの基本的  
要素ともなるべきものが理解されていない入園当初の4才児も、日々の遊びの中で、発達段階をふ  
まえた指導を受け、3年保育児の動きにも刺激されてお互いに影響し合って漸次リズムカルな動作  
ができるようになる。

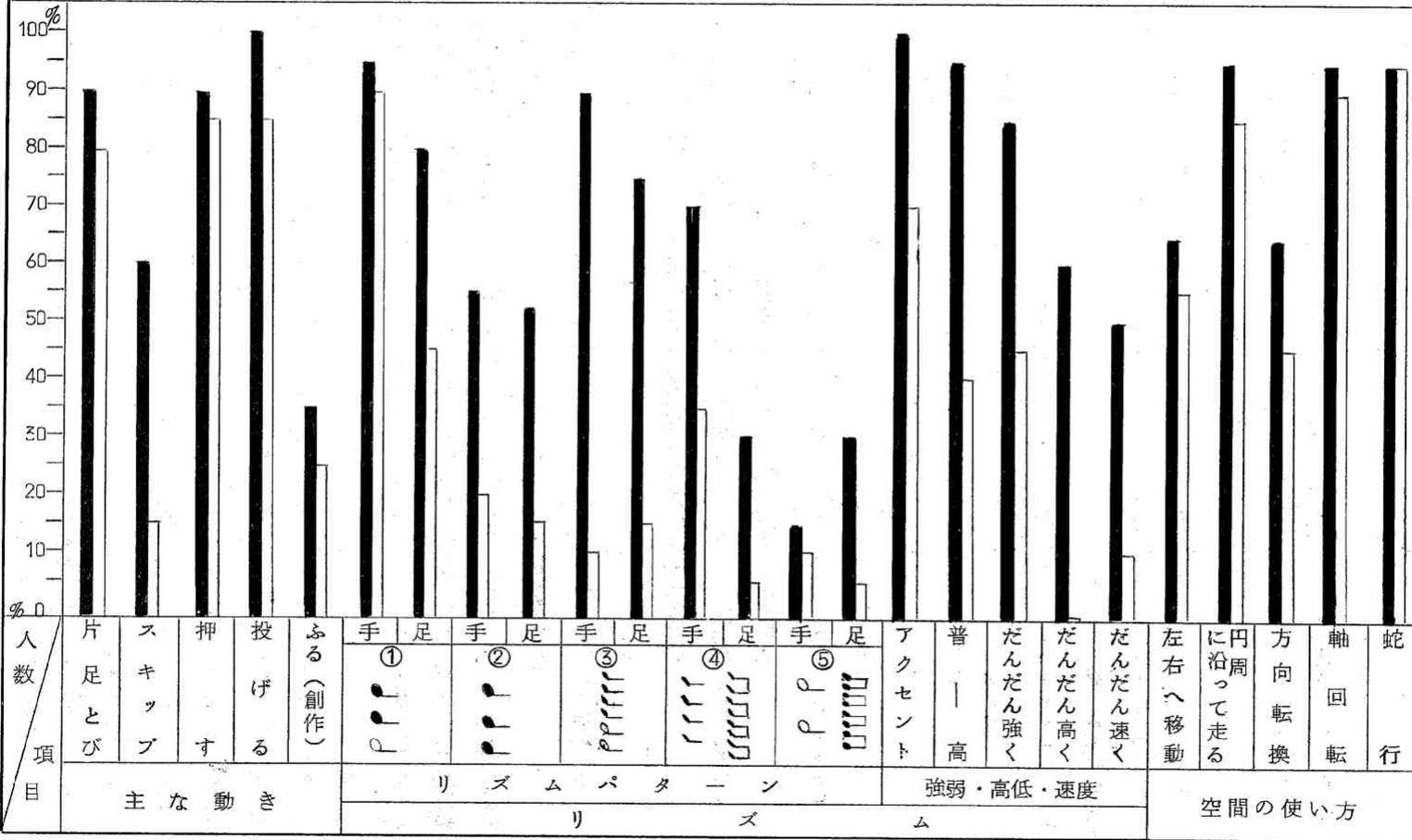
- (1) 自分の生活経験をからだで表現しようとする。

自由に表現を楽しもうとする雰囲気になれると、幼児の生活の中から具体的な題材をとりあげ、

昭和42年度 5月 2年保育年少組

A ■■■ 3才児教育を受けた者 (男11名 女9名) 計20名

B □□□ 新入園児 (男10名 女10名) 計20名



からだ全体でのびのびと表現を楽しむことができる。

表現の対象物は、動物や乗り物などを好み、全体的な特徴から更に部分的な特徴などもとらえて、即物的、即興的に表現しようとする。その表現は自己中心的であるために、他人には理解されにくい点もある。また「雨、風、雪」などの自然現象や「クリスマス」「大売り出しごっこ」などの社会事象については、関心を抱いてはいるが、それをからだで表現することは、動物、乗物などに比してむづかしいようである。

(2) 表現をくふうしようとする。

模倣的表現を楽しみつゝ、見たこと、感じたことをそのままからだで表現しようとするとき、それがほとんど既習のものであったり、友だちの動きの模倣であったりしても、そこに何らかの新しい着想やくふうの意図が感じられるときがある。その小さな新しい表現のひらめきはその幼児独自のものであり、創造の芽生えとなる。

(3) 音楽によって動こうとする。

音が聞えたらそれに注意を向けようとし、音楽が聞えればその音楽に反応して表現しようとする。幼児がよく「先生、音楽鳴らして」とか「ピアノひいて」などという。そして最初の動きは必ずしもその曲のリズムパターンをとらえてはいなくても、曲の流れにそって即興的に浮んでくる動きを連続的に表現し、楽しく踊り出す。

次に曲の中からリズムパターンをとらえ、パターンに応じて手拍子を打ったり、全身で動いたりしようとする。そこで、教師はそれらの特徴をとらえて伴奏すれば、より効果的に動きを誘導し、更に次の発展の端緒となる。

(4) 美しい表現を知るようになる。

奔放に動きまわっていた段階から、4才児なりに少しでも美しい表現の方がよいということを見出すようになる。

友だちの動きを見せ合って「どの動きがよいと思いますか」と意見をきけば、「〇〇ちゃんのは良かった」ということができる。理由は「きれいだった」「じょうずだと思う」「おもしろかった」などと答える。幼児はリズムカルであったとか、表現が斬新であったというようなことは言えないが、表現の豊かさを肌で感じとって何となく「いいなあ」と思っている。

## 2 指導の観点

(1) 興味や感動を与える経験や活動を多くもたせて表現意欲を抱かせる。

「どんぐり拾い」「しゃぼん玉遊び」など模倣しやすい経験や活動を豊かにもたせ、活発な話し合いの中に表現の方法などを誘導し、楽しく模倣的表現ができるようにする。

(2) 表現を豊かにさせるために基礎的指導が必要である。

感覚ではとらえていても、意志通りに動かなくてとまどっている時がある。特に動きの要素である「主な動き、リズム、空間」などの基礎的な動きの習得は、4才児の身体的発達及び個人の発達段階とも合わせて、無理なく、身につけておく必要がある。勿論基礎的学習から豊かな表現が創造される。

(3) 模倣的表現より創造への芽生えを養う。

基礎的学習と、模倣的表現を生かして新しい表現を生みだそうとする態度を養う。感動の場を与え経験を重ね、適切な助言によって表現のくふうをし、その芽ばえを大切にす。

(4) 友だちといっしょに表現する喜びを知らせる。

単独でのくふう表現だけではなく、2、3人の友だちといっしょに表現することによって内容がより豊かになるような題材を与えて協力する喜びを知らせる。

(5) 表現を助長させるための伴奏をする。

伴奏音楽は、幼児のイメージーションを大切にし、それをこわすことのないよう留意しなければならない。幼児の動きや気持をくんでその感情を損わず、しかも即興的に生れる動きに合うようにしなければならない。また幼児の親しみやすい曲で、幼児の感情を誘発し、表現を生み出すような曲を選択する必要がある。

### 3 指導の実際

例 1 「音あそび」 — 4月

ねらい 音に機敏に反応する。

- ・ 音がなれば動き出し、音が止れば止る。
- ・ 音の強、弱をとらえる。
- ・ 音のアクセントをとらえる。
- ・ 音の高、低をとらえる。

① 音に誘引されて動き出そうとするのは人間の本能であるが、幼児の場合は音が止ってもその動きの惰性で動きまわる。そこで音の合図によって動作を変えさせたり、不規則に曲を中止したりして音や音楽に注意を向けさせていく。このような経験によって音に対して敏感になり、注意力を養うことができる。

② 音には強い音と弱い音のあることを知らせる。それには強い動きと、強い音に関連して経験させ、強い音と弱い音の差に気づかせる。

例えば、「ライオンが散歩にでかけました。お父さんライオンは、とっても力が強く大きいので、ドン、ドンといばって歩きました。さあみなさんも、お父さんライオンになって歩きましょう」と言って、伴奏もピアノ或いは打楽器（タンブリン、太鼓など）で強い音をならす。更

に「今度は、子どものライオンが歩きました。子どもライオンはまだ小さくて、力も弱いのでお父さんのようには大きな足音ではありませんでした。」と言いながら弱い音で伴奏する。この場合のピアノ曲は、なるだけ単純な旋律で強・弱の差がはっきりつかめるようにする。

このようにすると、強い音の時には強い動作で表現するということになれてきて、強い・弱い表現を身につけるようになる。

強・弱の呼間については、



のように、最初は8呼間ずつの変化をもたせ、十分理解できるまでくり返す。強弱の差のちがいがわかれば4呼間にして、その反応を見る。第1拍目から弱に切りかえられるようになれば更に2呼間にする。

- ③ 強・弱が理解できると、アクセントとして把握させる。



アクセントをはっきり把握させるためにハンドカスタを使うのもよい。「さあ、みんな好きなものになって動きましょう。ときどき大きな音がなります。その時はハンドカスタを打ちましょう。音をよく聞いて動きましょうね。」

最初は、友だちの打つ音を聞いてあわてて打つ幼児もいるが、8呼間、4呼間と一定のリズムを続けると、正しく打てるようになる。このようなアクセントの指導には拍子木や太鼓の伴奏が適当であり、ピアノでアクセントの指導をする場合は明確に奏さなければならない。

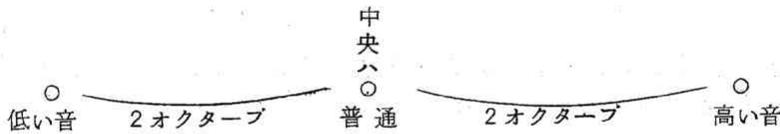
その他幼児に自由にアクセントをつけて打たせたりして、アクセントによるリズムの変化に気づかせるようにする。

- ④ 音の高・低を理解させるには、強・弱の指導と同じように、高い動作の時に高い音をひき、低い動作の時に低い音をひいてやる。

先づ幼児は高・低をどのように理解しているかたづねてみた。すると幼児は低い音（中央ハより2オクターブ低い和音）を聞いて、「こわい音、熊さんの鳴き声、ライオンの怒っている声、ぞうの音」次に高い音（中央ハより2オクターブ高い和音）を聞いて、「馬がないた、鈴がなった、きれいな音」などと連想し、更に「高いものは、山やビルディング、東京タワー」などと視覚からくる形の大きさで高・低を理解しているようである。そこで「高いものに、どんなものがあるでしょう。うんと高くなってごらんさい、もっともっと高くなりましょう。」と呼びかけると、つま先で立ち、椅子の上に乗る、積木や机の上に登ろうとする。

「ずいぶん高くなりましたね、では低いものにはどんなものがあるでしょう、そう、いろいろありますね、今度は低いものになって遊びましょう。蟻さんも低いし、へびやむかでも低いですね。もっと低くなりましょう。」幼児は床上に這って「先生、もうこれ以上ダメや」と、これ以上低くなれないことを告げ、次には机や物かげにかくれようとする。姿を消すことが最も低く小さくなったと思ったようである。

このようにして高い動作と高い音、低い動作と低い音を感じとらせ、音の高い、低いを理解させる。



高・低の差が4オクターブあれば理解できるが、中央ハを普通の音と考えると高・普通・低となると、感覚ではある程度理解できているのであろうが、動作の上ではとまどっている。即ち高・低の2段階は理解できるが、高・普通・低の3段階は理解しにくいと言える。

#### 例 2 活動「しゃぼん玉遊びをしよう」ー7月ー

単元「水遊びをしよう」において次のような経験をさせた。

- ・ プール遊び
- ・ 水鉄砲遊び
- ・ 舟 遊 び
- ・ しゃぼん玉遊び

「水遊び」の経験の中からしゃぼん玉遊びをとりあげる。

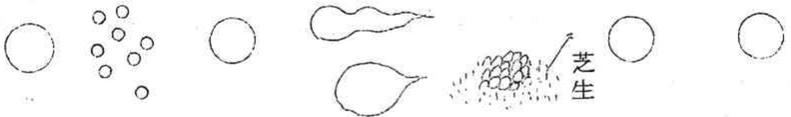
- ねらい
- ・ 楽しい遊びの中でしゃぼん玉のいろいろなふくらみ方を知る。
  - ・ 打楽器のリズムに合わせてリズムカルに表現しようとする。
  - ・ しゃぼん玉の動きをくふうしようとする。

表現活動を活発にさせるには、それを生み出す楽しい経験や活動が必要であることは言うまでもない。従ってしゃぼん玉遊びにおいても、・自由に吹く。・友だちとふくらませっこをする。・液を変えて試す。・いろいろな用具を使って吹く。などの経験をさせてしゃぼん玉のいろいろなでき方、消え方などをよく注意して観察させる。

#### 指導の観点

- ・ しゃぼん玉のふくらんでいくようす。
- ・ しゃぼん玉の飛んでゆれていくようす。
- ・ しゃぼん玉の消えるときのようす。
- ・ 用具の違いによるしゃぼん玉の形や大きさの変化を表現させる。

次の図は用具と、できたしゃぼん玉との関係と、その後に生れた幼児の動きの表現をまとめたものである。

用具	 ストロー  ストローを束ねる  ストローの先をわる  針金の輪  かんの先に穴をあける  四角柱  三角柱 その他
しゃぼん玉	
幼児の動き	 <p>消えた</p> <p>しゃぼん玉アパート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 両手で丸く表現する。(体前、頭上、後身へまわす、腰につける)</li> <li>・ 両手でとんでいく表現をする。(両手を上に伸ばす、片手をあげふる、両手を広げる)</li> <li>・ 数人で表現する。(個々が両手をあげて数人集ったり、そのまゝ集ってしゃがむなど)</li> <li>・ 主な動き。(歩く、走る、両足とび、スキップ、バランスなど)</li> <li>・ 空間 (左右にゆれる、前進、横進、軸回転、集、散など)</li> </ul>

即ち、しゃぼん玉で夢中になって楽しく遊んでいる中にいろいろな形を発見し、動きで表現する時に教師の暗示によって予想外の動きが表われた。

例えば

教「そっと しゃぼん玉をふきました。ゆっくりだんだん大きくふくらんできました」

幼「先生、ぼくのは小さいのがぱっとでたんだよ」

教「そんなのもありましたね。元気にとんでみましょう」

教「とってもきれいな色をしていましたね、くるくるとまわったり、風にゆられていました」

幼「高くとんでいったよ、あまりとばなくて洋服についたよ。芝生に落ちたよ。ぼくのはとばなくて、しゃぼん玉のアパートができたんだよ」

教「お友だちと組んでもよろしいし、楽しく風にふかれておどってみましょう」（自由方向へ移動したり、集ったまゝ「ブクブク」といいながらからだを大きくしたり縮んだりして遊ぶ）—バランスなどでおどっている幼児には2拍子・3拍子の曲をひいて動きを助言する。

教「おや、もう消えてこわれてしまったものもありますね。消える時は、どんなようすでしたか。みんな一度こわれるようすをしましょう」（パーンと飛び上る。ひっくりかえる。しゃがみこむ）

教「みんなしょうずにこわれましたね」幼「先生！ まだこわれてないよ。ぼくは芝生におちてそのまゝなんだよ。私も洋服にくっついて、こわれてないよ。」

このように遊びの経験が豊かであれば、幼児の発想も豊かであり、表現にも斬新なアイデアが生れてくる。

更にこれらの場合、当園では3才児からの教育を受けた者が、新入園児に比して意欲的であり、こゝに創作の芽生えがあり、感動から生ずることばが生れ、そのことばが更に次の新しい動きを作り出していく。従って彼らの感動のことばをすかさずとりあげて、全体の幼児を創造表現へと誘導する。

### 例 3 活 動「どんぐりやくりになって遊ぼう」 —11月—

単元 「木の葉、木の実で遊ぼう」において次のような経験をさせた。

- ・ 園庭の木の葉、木の実を拾う。
- ・ 近くの山へ拾いに出かける。
- ・ 拾ったもので遊ぶ。
- ・ 童話「くりの実ぼうや」を聞いたり、歌を歌ったりして遊ぶ。

秋の野山には教材が豊富にある。それらの経験や遊びの中で木の実の形の違いをつかませておく。コロコロところがせて遊んだり、くりのいがを直接手に触れさせたり、いがを割って中に実の入っている状態を観察させたりする。

教「どんぐりは木の枝にしっかりついていましたが、風が吹いてきて大きくゆれました。あー大変お友だちがころころと落ちて山の下へころころと行きましたよ。どんぐりになって動

きましよう」

教「お友だちと相談して木になったり、どんぐりになったりしましょう」

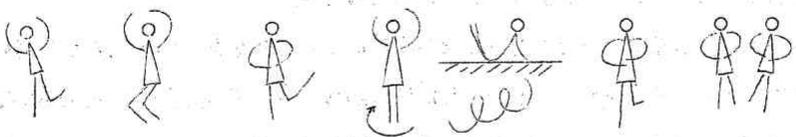
風が吹いて左右にはげしくゆれる。どんぐりは飛び上って木から離れ、自由にとび出してゆく。

教「○○ちゃんも××ちゃんも、とってもおもしろ



いどんぐりでしたね。きょうは、みんなでどんぐりのころびごっこをしましょう。どのど  
んぐりのころがり方がよいか考えてみましょう。」

ひとりひとり自由に くふうをしながらころがるのをみんなで見せ合う。

動き	
主動なき	走る 前けり 両足とび 片足とび 軸回転 軸回転 両手回転 バランス (車輪のように)
空間	直前進 直前進 蛇行 蛇行 その場 回転移動 前進 自由方向
ピアノ曲集	走る前けり ① 両足とび ② d ♪♪ ⑦ 左右にころがる ② 同一方向にころがる ③ 振る ① 歩く ②
タンブリン	♪♪♪♪ d, ♪♪ ♪♪, d ♪♪ ♪♪♪♪♪♪ トレモロ ♪♪♪♪♪♪ ♪♪♪

友だちの動きを見ながら自分は更にもっとくふうしてみようという気構えが見えいろいろな動きが生まれた。上記はその中の一例であって即興的に生れ、すぐ消えていくので他にもっと楽しい表現もあって記録できなかった。友だちの動きを客観的に見ることはこの年齢でも大切である。

伴奏はタンブリンとピアノを使ったが、即興的表現で、どんな動きができるかわからず、教師は即座に幼児の動きに合わせた伴奏をしなければならないので、打楽器の方が無難である。そして幼児がどんな動き方をしたいのかわかってからピアノで伴奏するのが幼児のイメージをこわさないようである。

次にくりの表現の例をあげる。

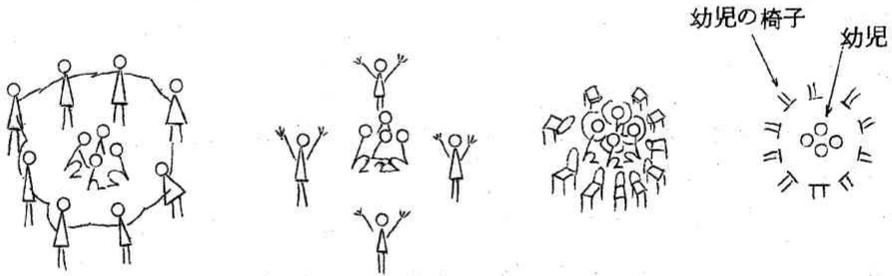
教「みんなでくりになってみましょう」



ひとりひとりがうづくまったり、立ったりしてくりの木の表現をしていたが、  
教「くりは何かかぶっていましたね。くりの家はどうでしたか」幼「いたかったよ、トゲがい  
っぱいでいたよ、その中にひっついていたよ。」

教「そうですね。トゲがいっぱいついていてその中にひっついて入っていましたね、考えてや  
ってみましょう。イガはどうすればいいでしょう。」

この問いかけの言葉に幼児はひとりでは表現しにくいことを思いつき、友だちを誘い合わせた。  
そして数人でイガの表現をした。このように個人からグループの表現へと必然的に入っていた。  
そして他のグループはみんなの椅子を持ってきて図の通り並べ、イガの表現をくふうした。この  
ような機会に友だちと協力するの必要を知り、協調性も育っていく。



このように、からだで表現するだけでなく、のように自分たちで表現の満ち足りないところを物で補おうとする点は4才児の特色である。

#### 4 ま と め

以上、4才児の指導に当たって、創造的表現を活発にさせるためには、基礎的指導を見逃がすことはできない。従ってその基礎的指導をとおして創造的表現へと導く指導上の留意点を次のようにあげる。

1. 模倣的表現を活発にさせるための経験や活動を多く与える。

この場合、ただ経験や活動を多く与えるのみではなく、幼児の表現をみて幼児の興味がどこにあるかを適確にとらえて、その表現が助長されるような経験や活動でなければならない。

2. 4才児における基礎的指導の与え方とその時期を考慮し、無理のないようにする。

基礎的指導は常に身近な経験や活動を通して、興味深く楽しい遊びの中で指導しなければならない。そして身体的にも発達段階をふまえ無理のないように配慮する。

3. 経験や活動の中で生れた幼児の感動を大切にし、その中から創造への足がかりをみつける。

幼児は感動を瞬間的にいろいろな言葉や動きで表現するが無意識の場合が多い。そのような時に幼児自身の考えを意識づけてやり、自信をもたせるようにし、同時に教師もまた認めるようにする。

4. 幼児がイメージネーションを抱きながら、その表現方法にとまどっている場合は助言をする。

意志が働いてもその表現方法がみつからず動きが進展しない時があるが、そのような時は幼児のイメージネーションがどのようなものであるか、そしてそれがどの方向に進みたいのかよく見究める。その上で、表現方法の糸口をヒント的に与える。その際、なるだけ動きを押しつけたり、固定したりしないような助言をする。

5. 幼児の動きの方向を見究めて伴奏する。

伴奏は、幼児の動きに合わせて即興的に、または選曲して伴奏するが、幼児の動きをよくとらえ、その表現を助長させるような伴奏をする。

しかし、教師が先走って伴奏すると、幼児のイメージを損ねる場合もあるので、日常の観察からひとりひとりの表現の個性を見究めておかなければならない。

## 5 才児の指導

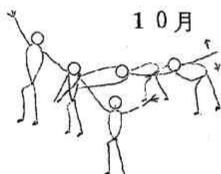
### 1 動きのリズムにみられる5才児の姿

- (1) 自分がみたこと、感じたことをからだで表現する場合、単に外面の模倣だけでなく、その内容に適した動きをくふうしようとするかまえがみられ、ものの状態や感情などを表現しようとし、また手足の動かし方などについても友だちとちがった表現をさがそうとする。

動物などを表現する場合、そのものが遊びの中でどんな生活をしているか、どんな感情を持っているか、などを考え、それに応じた表現をしようとする。また大きな動物や乗物、機械などは、数人集って表現することができる。この場合は、はじめは一定の場所で各部分の表現をするだけであるが、数回経験を重ねるうちに、その形をくずさずに移動することができる。

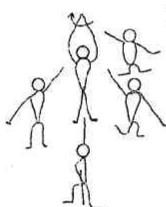
#### 例 1. ぞうの表現

- 6月 1人— 両手で鼻の表現をし片足だけ動かし、からだをのぼしてむりやりにえさをたべる様子をする。そして動物園のぞうはくさりにつながられているから遠いところへ投げられたえさは、うんとせのびしなければたべられないのだ”という。



- 10月 5人— 1人が鼻、2人が耳、残り2人が胴と後足になり耳や鼻を動かしながら図のような形を作り部屋の中をかけ足でぐるぐるまわる。そして”ぞうがおこってジャングルの中を走っている”という。

#### 例 2. ロケットの表現



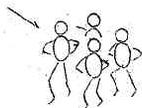
- 12月 1人が中心になり4人が尾翼になる。すわったまゝ周囲をまわったり、手のひらを歯車にしてその場で上下左右に動かしたりする。中心になった幼児は立ったりすわったり、軸回転をする。発射してとぶ時は1列になって走る。

- (2) 生活経験や童話などの場面もいくつかみあわせ連続してグループで表現する。

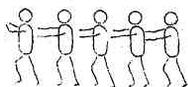
#### 例 1. 「遊園地へいこう」

グループごとに相談して、バスに乗っていく、動物園をみる、お弁当を食べる、すべり台やジェットコースターに乗る、ボートをこぐ、バスで帰る、などの内容を決め、それに従って動きを考え、連続して表現する。グループの中で場面ごとにリーダーをかえるように助

言すると、どの幼児も自信をもって表現した。



・ バスに乗る — 2列にならび前列右側のこどもが運転手（リーダー）になり、“発車” “左にまがります” “信号まちでとまります” などといいながら走る。



・ ジェットコースターに乗る — 1列につらなり、先頭のものがリーダーになり、高くなったり低くなったりして走る。速度にも変化をつける。（高いときはゆっくり、低いときは思い切り速くした。）

(3) 空想や想像を友だちと話し合って役割分担をきめ、動きに表現しようとする。

話を作り、その筋にそって登場するものを考え、役割を分担してグループでそれぞれまとまった表現を考える。

(4) 助言によって、動きや空間の使い方などが多面的になる。

例えば、雨や雪は空間をやたらに走りまわる表現であったものが、「足の動かし方をくふうしてごらん」という教師の助言で、けり足、スキップ、片足とび（2拍子、動作）バランスなど動作に変化がでてくる。空間の使い方助言によって線から円、円から自由方向へ、さらにまた横隊にならぶなどの動きがでてくる。このように空間の使い方や動き方は、幼児の自由性にばかり任せておいたのではある程度以上の発展はみられないから教師の助言が大切である。

(5) 曲の中のリズム、強弱・高低・速度などをパターンとしてとらえて、それを動きにあらわそうとする。

その曲の優美さ、軽やかさ、重々しさ、寂しさなどの感じをとらえて、その感じを動きに表現しようとする傾向があらわれる。

## 2 リズム指導の観点

(1) 創作的表現のテーマは、幼児が身近に経験するもの、または幼児が想像しやすいものを選ぶ。

(2) 幼児の創作的表現の方向を予想して、それを助長するような話し合いや今までに習得した基礎的な動きなどを思いださせて活用させる。

(3) 友だちと話し合って表現を考え、くふうする方向へ導びく。

個々の表現をくふうさせるとともに、グループでの表現が効果的である場合は、その話し合いや動きについて助言する。

(4) 幼児のイメージにあった伴奏曲を用意する。

### 3 ま と め

考えたこと感じたことを動きに表現する場合、5才児では何かまとまった表現にしようとする傾向があるので、できるだけテーマのある題材を与えたい。次に創作的表現の指導上の留意点をあげると、

- (1) テーマを決めるときは各幼児の発想を尊重しながら表現に適する内容を選ぶ。

発言の活発な幼児のかけにかくれた消極的な幼児の考えをもひき出しながら個々の幼児の夢や希望が生かされるように配慮する。

- (2) グループ指導については、グループ成員の動向に注意し、また各グループの表現能力にかたよりのないよう指導する。

グループ成員の人間関係に留意し、リーダーが固定したり、その発想をメンバーにおしつけれりすることのないよう助言をする。また各グループが均等にのびていくために、着想のおもしろい幼児、発言の活発な幼児を起用することも時には大切である。

- (3) 各グループの表現を観賞させる。

観賞にあたっては、各グループの成員が協力して1つのまとまった表現をしているか、空間的に全体的な構成の美しさを表現しているか、テーマの内容が如実に表わされているかなどについて話し合わせる。

- (4) 伴奏は表現にあったものを用いる。

既成の曲の中から選曲しても即興的に作った曲でもよい。既成曲をもちいてそれから幼児のイメージをひき出す場合は、あらかじめ幼児たちにその曲を十分聞かせ、曲の長さ、リズム、感情などを十分把握させたのち、動きを考えさせる。また幼児に交代で打楽器などを打たせるのも効果的である。

- (5) 動きの表現に関連性のある他の領域（健康、社会、自然、言語、絵画製作）の指導と相まってさらに表現活動を展開させるように留意する。

次に創作的表現の指導事例 a, b, cを掲げる。

#### 事例 A お山へおりたふうせん

##### ・ 題材をとりあげた理由

例年運動会には、幼児たちが花の種をつけたふうせんを空にあげる。色とりどりのふうせんが遠く他県の幼児に拾われて、その種が花を咲かせたという実際の経験は、非常に印象強く楽しい夢を育ててくれる。その経験を生かして、とんでいったふうせんについてみんなで話し合っってストーリーを作り、それを表現させようとした。

##### ・ 話のあらすじ

こぐまのコロちゃんは、ヘリコプターにたくさんのふうせんをのせてとびたちました。ふうせんの下には、花の種がついています。これを山のお友だちにあげたらきっとまいてくれるでしょう。そしたら、お山は花でいっぱいになってどんなにすてきでしょう。

- ① ヘリコプターは快調にとびました。山の上までとんでたくさんのふうせんをまきました。ふうせんは、ふわりふわりとゆれながらおりにていきました。
- ② 地面においてゆれていると、雲がでてきて急に雨が降り出しました。ふうせんは雨にうたれてそのまゝすぼんでしまいました。
- ③ やがて雨があがった頃、りすがやってきて「これはなんだろう」とひっぱってみました。ふうせんは伸びてりすが手をはなすとパチンとちぢんでしまいました。「ああ、これはおもしろい」りすは愉快になって、もう一度ひっぱってみました。ぐんぐんのびていきます。手を離すと、今度は前よりも強くはねかえってはじきとばされました。おどろいたりすは、大あわてで林の中へ逃げていきました。
- ④ 風が強ク吹いてきて、ふうせんは野原のまん中へ集まりました。そこへ青虫が遊びに来て、楽しそうに日なたぼっこをはじめました。ふうせんをみつめて「何だろう、ほくたちのおうちへ運ぼう」と、言って運んでいきました。
- ⑤ 残ったふうせんは「誰か早く花の種をみつめてくれるといいのになあ」と思いながら待っていると、ことりがやってきて「おや、こんなところにふうせんがあるよ。おーい、みんなおいでよ」と友だちを呼びました。
- ⑥ 山の動物がおおぜい集まりました。ことりがふうせんを吹きました。そのたびにふうせんは、だんだんふくれていきました。山の動物もおもしろそうに眺めていました。  
ことりが最後に力いっぱい吹くと“パーン”大きな音といっしょに破裂してしまいました。見ている動物もびっくりしてひっくり返りました。
- ⑦ そのとき、よく見ると、破れたふうせんの下には、お花の種がついていました。「これはいいね。みんなでお山にまこうよ。」と、いって種をわけました。ふうせんは喜びました。きっと春には、お山いっぱい花が咲くでしょう。

#### 指導上の留意点

##### 1. 導入

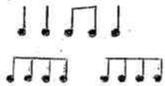
- イ、運動会の経験を話し合い、とんでいったふうせんについていろいろと空想させ、みんなの夢をより豊かなものへと導く。
- ロ、ふうせんを室内でとぼし、遊ぶうちにふうせんの性質、ふくらみ方、ゆれ方などに気づかせ、ふうせんに興味を持たせるようにする。
- ハ、ストーリーを作っていく場合、幼児の話題の中からできるだけ変化があるような登場するものを選んでいく。

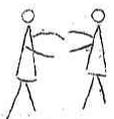
##### 2. 動きの表現

- イ、幼児個々の発想によって夢を十分生かし、自由表現を楽しませる。
- ロ、動きに変化をもたせるために、2～3人組になってくふうさせる。4才児の集団での表現は、個々の動きが主体となるが群として同時に行動させる場合は、ある程度教師の助言が必要である。
- ハ、登場するものの個性を生かして特徴のある動きを表現させる。
- ニ、群の集・散、緊張・弛緩などの動きが表現しやすいように空間を十分にとらせる。

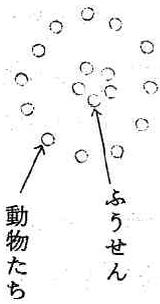
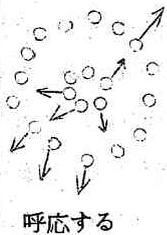
##### 3. 役割分担

- イ、各自の希望によって自由に役割につくが、人数の配分については動きやすい程度のグループにわかれさせる。
- ロ、お互いに役を交代し合って表現させる。

幼児の活動	主な動き	リズム		空間の使い方
		リズムパターン	強弱高低速度	
・ヘリコプターがとぶ	走る  腕をまわす  連手してまわる		だんだん高く だんだん低く	自分の周囲をまわる  縦隊 上下の動き
・ふうせんがおきる	バランス		だんだん低く	自由方向へ移動 左右の動き 2・3人組
・雨がふる	歩く すり足 両手のあげおろし 両足屈伸		だんだん速く だんだん遅く	横隊前進 自由方向へ移動 軸回転
・ふうせんがすぼむ	しゃがむ たおれる		だんだん低く	
・りすがくる	走る  首をふる			一列縦隊 自由方向へ移動
ふうせんをひっぱる 手をはなす	引く、引かれる  走る			前進、後進
逃げる	両足とび		速	
風がふく	すり足		速 — 遅	

ね ら い	指導上の留意事項	備 考	伴 奏
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふうせんは、ヘリコプターに連なってふりおとされたいようじょうずに走る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなが連なって走るようにヘリコプターの伴奏の速度に気をつける。</li> </ul>		ピアノ伴奏曲は、「動きのリズム」作曲編に掲載 P 37
<ul style="list-style-type: none"> <li>・伸びたりしゃがんだりしながらおもしろく走る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2拍子のバランスでもよい。</li> </ul>		P 38
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふうせんが、ゆれながら楽しそうにおりる動きをくふうする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手やからだ全体で、雨のふる様子をいろいろくふうさせる。</li> </ul>		P 38 P 39
<ul style="list-style-type: none"> <li>・リズムパターンのちがいをききわける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手やからだ全体で、雨のふる様子をいろいろくふうさせる。</li> </ul>		P 38 P 39
<ul style="list-style-type: none"> <li>・できるだけ小さくなり、すぼんだ感じを出させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高一低へと徐々に小さくなれるよう伴奏に留意する。</li> </ul>		P 39
<ul style="list-style-type: none"> <li>・2・3人でリズムに合わせてひろがる動作をくふうする。</li> <li>・りすとふうせんの呼応動作を楽しませる。</li> <li>・おどろいて逃げる表現をくふうする。</li> <li>・ぶつからないように集まる。</li> <li>・個々のふうせんから集って、</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お互いにぶつからないように助言する。</li> </ul>		P 40 P 40 P 40

幼児の活動	主な動き	リズム		空間の使い方
		リズムパターン	強弱高低速度	
<ul style="list-style-type: none"> <li>青虫がくる</li> <li>日向ぼっこをす る</li> <li>ふうせんをみつ ける</li> <li>ふうせんをはこ ぶ</li> </ul>	腕立て腹ばい 仰臥 ころがる 両手両足の屈伸  はこぶ はこばれ る	♩ ○	低	腕立て前進  定位へ移動
		<ul style="list-style-type: none"> <li>ことりがくる</li> <li>ふうせんをみつ けて友だちを呼 ぶ</li> <li>ふうせんを吹く</li> </ul>	スキップ  シャがむ 立つ	 ことり ♩ ふうせん ♩
<ul style="list-style-type: none"> <li>ふくらむ</li> <li>破裂する</li> </ul>	のび上がる。ひろ がる ジャンプ たおれ る			
<ul style="list-style-type: none"> <li>種をみつける</li> </ul>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>歌を歌う</li> </ul>				群 — 集
<ul style="list-style-type: none"> <li>話し合う</li> </ul>				

ね ら い	指導上の留意事項	備 考	伴 奏
<p>大きいふうせんを群として表現させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しく表現する。</li> <li>・みんなで協力して動作する</li> <li>・呼応動作を楽しむ</li> <li>・みんなで破れないようにひろがる形をくふうする</li> <li>・破裂したときのおもしろさを力いっぱい上って表現する。</li> <li>・よろこびの表現をする。</li> <li>・友だちや自分の動きについて感じたことをすなおに話す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・群としての移動に気づかせる</li> <li>・破裂したときは機敏に動作をさせる。</li> <li>・よかった点、困った点などについて話し合わせる。</li> </ul>	  	<ul style="list-style-type: none"> <li>P 4 1</li> <li>P 4 2</li> <li>P 4 2</li> <li>P 4 2</li> </ul>

## 事例 B 「種っ子の冒険」

### ・ 題材をとりあげた理由

「種っ子の冒険」というテーマを提供し、幼児たちのいろいろな経験や社会への関心ひきだしてまとめ1つの話を構成させた。

幼児たちの実生活から生まれた話題であるため、幼児自身の表現が容易である。そこでグループ表現の初歩としてこの題材をとりあげた。

### ・ 話のあらすじ

- ① お花畑にはきれいな花がたくさん咲いていました。やがて秋風が吹いてきて、花は1つづつおれていきました。そして中から元気なたねっこがとびだしました。たねっこたちは好きなところへ飛んでいっていろいろなものを見してきました。

(以下はたねっこが何を見てきたかについて幼児たちに話を作らせた。その例をあげる)

- ② Aグループは山へ行ってきました。

雪がいっぱいあった山では元気な子どもたちが、雪投げ、スケート、スキーなどで楽しく遊んでいました。

Bグループは野原へ行ってきました。

草むらには虫がかくれている子どもたちが近づくとバアッと逃げました。子どもたちはじょうずに虫をつかまえました。

また池のそばには牛がいました。池からとんで出たかえるの子どもは、牛を見てびっくりしました。大急ぎで家へ帰って、おとうさんかえるに知らせるとおとうさんかえるは牛のまねをしておなかをふくらませましたが、あまりふくらませすぎてとうとうパンクしてしまいました。

Cグループは町へ行ってきました。

広場では子どもたちが、まりつきをしたり、なわとび、三輪車などで遊んでいました。

Dグループはロケットの発射基地へ行ってきました。

ロケットの組立てが始まり大きなロケットができました。さっそく乗りこんで月へ行きました。月では何でも軽くなるというので、歩いてみたり、とんでみたりしました。

- ③ いろいろなことを見てきたたねっこは、またもとの花畑に集って見てきたことを話し合って、楽しみました。それから、その楽しい思い出を胸に抱いて、春までぐっすり眠りました。

### 指導上の留意点

#### 1. 導入

幼児の経験を絵や話に表現させ、その発表の中から幼児たちとの話し合いによって動きに表現しやすい内容を遊ぶ。

#### 2. 動きの表現

全員にいろいろな内容を動きに表現させる。自分が表現を楽しむだけでなく、他の人によくわかるように動きを作らせる。

### 3. グループ別の練習

表現したい場面を選ばせ、人数の調整をしてグループわけをする。1グループは5～6人程度とする。

グループごとに表現を考え練習させる。教師は各グループごとに助言指導する。

### 4. 発表

各グループの表現が一応まとまったら、グループ別に発表させる。他のグループのものは観賞し批評する。

### ・ 備考

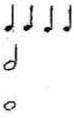
他のクラスの友だちに見せて、動きあててもらった経験をもたせるとよい。またジェスチャー遊びなどに発展させてもよい。



ね ら い	指導上の留意事項	備 考	伴 奏
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3拍手をとらえて自由に花の表現をする。</li> <li>・ 曲の速さにあわせて動く</li> <li>・ たねっこがとび出す動きを各自くふうする。</li> <li>・ 曲にあわせて対応動作を楽しむ</li> <li>・ 友だちの動きを見る</li> <li>・ 虫がかくれている時はできるだけ小さくなる</li> <li>・ つかまえた時の喜びを表現する。</li> <li>・ かえるがうしを見てびっくりした様子の表わし方をくふうする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 曲の終わりでグループになり花の表現をする。</li> <li>・ 大きい花、小さい花などの表現をグループで考えさせる。</li> <li>・ 花がしぼむところはピアノの強さ、速さを考える。</li> <li>・ 2つのグループの間隔が適当な距離を保つよう指導する。</li> <li>・ スキーとスケートの動きのちがいなどをテレビ、写真などで観察させる。</li> <li>・ 強弱の表現をはっきりさせる</li> <li>・ 童話のおもしろさを話し合いどの部分を表現すれば効果的かなどについて助言する。</li> </ul>	<p>全 員</p> <p>歌「たねっこ」 Aグループだけが舞台に残りB C・Dは歌といっしょに退く。</p> <p>友だちに何を見てきたかをあててもらおう。 AとBは歌の間に入れかわる。</p> <p>童話 「かえるのおとうさん」</p>	<p>ピアノ伴奏曲は「動きのリズム」作曲編に掲載</p> <p>P 4 3</p> <p>P 4 3</p> <p>P 4 4</p> <p>P 4 4</p> <p>P 4 5</p> <p>P 4 5</p> <p>P 4 5</p> <p>P 4 6</p> <p>P 4 6</p> <p>P 4 7</p> <p>P 4 7</p>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・かえるのおとうさんがおなかをふくらませる。</li> </ul>	腹をそらせる		遅 だんだん遅く	定 位
<ul style="list-style-type: none"> <li>・こどもは「いいえ、もっと大きい」と手をふる。</li> </ul>	手、首をふる		速 だんだん強く	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・かえるのおとうさんのおなかがパンクする。</li> </ul>	うしろにしりもちをつく		強いアクセント	散
<p>Cグループ</p> <p>町の子どもの遊び</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まりつきをする</li> </ul>	スキップ、両足とび び つく しゃがんでとぶ		高 - 普 - 低 だんだん高く	上下の動き 2人組 回転
<ul style="list-style-type: none"> <li>・なわとびをする</li> </ul>	両足とび 片足とび		強 弱	2人の子どもがなわをまわして順にとぶ
<ul style="list-style-type: none"> <li>・三輪車にのる</li> </ul>	ギャロップ ホップ 走る		だんだん速く	
<p>Dグループ</p> <p>宇宙旅行の様子</p>				

<ul style="list-style-type: none"> <li>•かえるのおとうさんとこどもの動きをユーモラスに表現する。</li> </ul>			P 47
<ul style="list-style-type: none"> <li>•まりとこどもになって自由にリズムカルに動く。</li> <li>•なわを持つ子ども、とぶ子どもが同じリズムで呼吸をそろえて動く。</li> <li>•2〜3人で三輪車を表現する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>•二列にならび、まりのこどもは前列で動かせる。</li> <li>•高く、低く、強く、弱く、速く遅くなどまりをつくこどもにくふうさせる。</li> <li>•グループがそろって動けるようピアノの速度に気をつける。</li> </ul>	<p>友だちに動きをあててもらい歌の間にCと入れかわる。 歌「たねっこ」</p> <p>木魚、ウッドブロックなどをたたく。</p> <p>P 47</p> <p>P 48</p> <p>友だちに動きをあててもらい歌の間にDと入れかわる。 歌「たねっこ」</p> <p>P 48</p>	

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロケット組立て</li> </ul>	腕をまわす 屈伸 ねじる		アクセント	軸回転 上下左右の動き 前後左右へ移動
<ul style="list-style-type: none"> <li>・秒よみ</li> </ul>	屈伸		だんだん強く	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロケットが発射して宇宙をとびまわる</li> </ul>	走る		だんだん速く 一速一だんだん遅く	一列縦隊で線になったり円になったりする。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・月に着陸する</li> <li>・月の表面を遊歩する</li> <li>・ジャンプする</li> <li>・ロケットにのって地球に帰る</li> </ul>	ひざを高くあげて歩く とぶ 走る	 	弱  アクセント	自由方向へ移動  一列縦隊で移動
<ul style="list-style-type: none"> <li>・もとの花畑にもどる。</li> </ul>	手をふる 連手して歩く ひざを立てて屈伸 バランス ギャロップ	 		大半円、小円を作る 上下の動き 円心に向って前進 後進 円周に沿って ギャロップ

<ul style="list-style-type: none"> <li>・機械の動きや金属の感じをいろいろなリズムで表現する</li> <li>・アクセントに留意して、なめらかにでない動きを考える</li> <li>・みんなでロケットを構成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々のリズムが、ちがう場合もあるので伴奏をくふうする。</li> <li>・打楽器なども伴奏に利用する。</li> </ul>		<p>P 48</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・無重力で歩く様子をとらえる</li> <li>・不安な感じを動きに表現する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロケットが広い宇宙をとびまわるので動きが小さくならないように助言する。</li> </ul>		<p>P 49</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・フィナーレのおどりをダンス風にみんなでまとめる</li> <li>・3拍子によって美しくおどる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・終りはリズムカルな形をきめた動きで終ってもよいし、静かにねむってもよい。</li> </ul>	<p>友だちに動きをあててもらって歌にあわせて全員がでてくる。</p>	<p>P 50</p> <p>P 43</p>

## 事例 「宇宙探検」

### ・ 題材をとりあげた理由

最近、宇宙についての関心が高まり、その探究は人類の夢となっている。幼児たちもニュースや漫画の影響を受けて宇宙探検にはてしない夢を抱いている。この未知な世界に対する興味を全身で表現させたいと思う。

### ・ 話のあらすじ

宇宙探検をするには、何に乗っていくか、どんな服装をしていくか、大空にまたたく星にはどんなものがあるのだろうかなどを、幼児に想像させて発表させながら話をまとめる。以下はその一例である。

#### ① 宇宙探検用のロケットを組立てる。

ピストンや歯車などの機械を動かしながらロケットを作りました。さあ、みんな宇宙服を着てロケットに乗りこみましょう。

#### ② 地球を出発して宇宙を飛び、星群に逢う。

ロケットは勢よく地球を出発しました。ビューンと早く飛んだり、雲の中をゆらゆら進んだりしています。

おや、たくさんの星が見えて来ました。星はかたまったり、離れたりしてとてもきれいに輝いています。そんなきれいな星の中を通りすぎて、ロケットはまた、ぐんぐん飛んでいきました。

#### ③ 宇宙ステーションに到着して休む。

ロケットは宇宙ステーションに着きました。宇宙ステーションは円盤のような形をしてぐるぐる廻っているのです。ステーションの中では、人間は地球にいるときと同じように歩けますが、ステーションの外へ出るとふわふわ浮いてしまうのです。ここで機械をみがいたり、ステーションの外へ出て、散歩したりして暫らく休みました。

#### ④ 宇宙ステーションを出発して飛行、ある星に到着し、宇宙植物を見る。

またロケットに乗って出発します。ぐんぐん早く飛んだり、ぐるぐる廻ったりして飛んでいきますと、大きな星に着きました。ロケットが降りて休んでいると、まわりには宇宙の花や木がゆらゆらゆれて踊っていました。宇宙の花や木は、へびのようにくにくにゃたり、海のないこのように手や足がたくさん出たようなのや、とてもおもしろい格好でした。

#### ⑤ 宇宙動物に逢って戦う。

さあ、星の中を探検に行きましょう。暫らくいくと宇宙動物が出て来ました。怪獣です。ビピーッ ビピーッと電波を出しています。こちらも電波を出しましたよ。両方でさぐりあいをしています。

あっ 怪獣が攻めよせて来ました。地球人はどんどんうしろへさがって行きました。

負けては大変 ヒューンとカーぱい葉を吹きつけました。そしてとうとう宇宙の怪獣は溶けてしまいました。

⑥ 宇宙人が出て来てパーティを開く。

宇宙人が出て来ました。宇宙人は、地球人が怪獣を退治してくれたので喜んでパーティを開いてくれました。そしていっしょに楽しく遊びました。宇宙の花や木は楽しい踊りを見せてくれました。

⑦ ロケットは地球へ向って出発する。

宇宙人と別れて地球に帰る時が来ました。さあロケットに乗り込んで元気よく出発です。宇宙人が見送ってくれます。そして星はだんだん遠くなって見えなくなりました。

・ 指導上の留意点

1. 導 入

イ、幼児たちに知っている宇宙童話や想像したことを発表させながら、動きの表現に適した話にまとめていく。

ロ、その話のすじにそって個々の幼児のイメージを共通の理解に導くためにごっこ遊や、絵に表現させたりする。

2. 動きの表現

イ、地球上の人物や機械と、宇宙の生物との感じの違いをくふうさせ、対象的な表現をさせる。

ロ、個々の幼児の想像を自由に動作で表現させながら、動きのパターンやアクセントなどを選択させる。

ハ、群舞としてのくふうをさせ、直線と曲線の構成や、群の移動、呼応動作などのおもしろさについて助言する。

ニ、話の内容にそって一連の動きに表現をまとめるときは、伴奏曲にのって楽しく表現できるようにする。

3. 役割分担

イ、すべての幼児が役割の特色を十分知ってから、自分のなりたい役を選ばせる。

役割……ロケット（地球人） 星群 宇宙ステーション 宇宙植物 宇宙動物 宇宙人

ロ、全体的な構成は、設備や発表の場（運動場、舞台）などの目的に応じて人員構成を調整する。

・ 指 導 例

展 開

第1次 話をつくる

第2次 話の内容にそってごっこや絵に表現させる。

第3次 すじに伴う動きを、それぞれに考えさせ表現させる。

- 第4次 動きを見せ合いながら、望ましい表現について話し合わせる。
- 第5次 グループを作り、グループとしての動きをくふうさせる。
- 第6次 各グループの動きを観賞させ、批評し合わせて、よい表現をくふうさせる。
- 第7次 全体をまとめて表現させる。
- 第8次 他の組にも表現を見せる。(発表会)

## 後 記

3ヶ年にわたる私どもの研究の概要を一応まとめて集録しました。

顧みますと、研究は園舎の新築移転、環境づくりと平行して続けられましたために、卒直にいて相当の負担でございました。しかし幸い本学文学部の土谷助教授、地主助教授の懇切なご指導を頂くことができ、全職員が一致協力してことにあたりましたので、今日の成果を見ることができました。

私どもは、この研究成果をふまえ、さらに明日に向かって前進を続けたいと存じておりますので、皆様方の忌憚のないご批判を賜りたいと存じます。

なお、この研究紀要Ⅰと同時に発表しました研究紀要Ⅱ動きのリズム作曲編、動きのリズム参考曲編をも合わせて、研究の全貌をご覧いただきたく存じます。

最後になりましたが、ご指導、ご協力を賜りました土谷 澄先生 地主忠雄先生ならびに、前園長横田俊一先生に深謝いたします。

I Q調査ならびに「動きのリズム」調査検定は奈良女子大学文学部教育学科、体育学科学生の協力を得ました。

昭和43年2月

### 奈良女子大学文学部附属幼稚園 幼 年 教 育 研 究 会

会 長	樽	松	静	江
会 員	今	西	寿	子
	大	橋	和	子
	大	沢	須	美子
	中	村	き	み
	粕	谷	の	り子
	島	岡	尚	子
	木	原	陽	子
	樋	口	雅	子
	石	田	正	代